

IBM Cognos Analytics
バージョン 11.0

サンプル・ガイド

IBM

©

製品情報

この資料は IBM Cognos Analytics バージョン 11.0.0 を対象として作成されています。また、その後のリリースも対象となる場合があります。

お客様の環境によっては、資料中の円記号がバックスラッシュと表示されたり、バックスラッシュが円記号と表示されたりする場合があります。

原典： IBM Cognos Analytics
Version 11.0
Samples Guide

発行： 日本アイ・ビー・エム株式会社

担当： トランスレーション・サービス・センター

著作権

Licensed Materials - Property of IBM

© Copyright IBM Corp. 2005, 2018.

IBM、IBM ロゴ、および ibm.com は、世界の多くの国で登録された International Business Machines Corp. の商標または登録商標です。他の製品名およびサービス名等は、それぞれ IBM または各社の商標である場合があります。現時点での IBM の商標リストについては、<http://www.ibm.com/legal/copytrade.shtml> をご覧ください。

以下は、それぞれ各社の商標または登録商標です。

- Microsoft、Windows、Windows NT および Windows ロゴは、Microsoft Corporation の米国およびその他の国における商標です。
- Linux は、Linus Torvalds の米国およびその他の国における商標です。
- UNIX は The Open Group の米国およびその他の国における登録商標です。
- Java およびすべての Java 関連の商標およびロゴは Oracle やその関連会社の米国およびその他の国における商標または登録商標です。

© Copyright IBM Corporation 2005, 2015.

目次

第 1 章 Cognos Analytics サンプル	1
第 2 章 基本サンプルの使用	3
基本サンプルのインポート	3
第 3 章 拡張サンプルのインストールと設定	5
Cognos Analytics サンプルのインストール	5
Windows へのサンプルのインストール	5
UNIX または Linux へのサンプルのインストール	6
サンプル・データベースのバックアップ・ファイルの復元	6
Db2 サンプル・データベース	6
Oracle サンプル・データベース	12
SQL Server サンプル・データベース	16
サンプル・データベースへのデータ・サーバー接続の作成	16
拡張サンプルのインポート	17
Cognos Framework Manager サンプル・データベース・モデル	18
第 4 章 補足サンプルのインストールと設定	19
Microsoft Analysis Services のキューブ・サンプルの設定	19
Essbase キューブ・サンプルの設定	20
OLAP データ・ソースへのデータ・ソース接続の作成	21
PowerCubes ヘデータ・ソース接続の作成	22
Oracle Essbase キューブヘデータ・ソース接続の作成	22
Microsoft Analysis Service キューブヘデータ・ソース接続の作成	23
補足サンプルのインポート	24
IBM Cognos Dynamic Cubes のサンプルのセットアップ	25
サンプル動的キューブの配布	26
第 5 章 サンプルの使用	29
Sample Outdoors 社	29
Sample Outdoors 社グループ	30
従業員	32
販売とマーケティング	32
Sample Outdoors データベース、モデル、パッケージ	33
サンプル監査モデルおよびサンプル監査レポート	35
サンプル監査レポートのセットアップ	39
動的クエリー・モードのサンプル・レポート	40
サンプル・データ・ソースへのデータ・ソース接続を変更する	40
Content Store への動的クエリー・サンプル・コンテンツ (パッケージ) のインポート	41
IBM Cognos Analytics - Reporting サンプル	41
Sample Outdoors 販売 (キューブ) パッケージのサンプル	41
"販売とマーケティング (キューブ)"パッケージのサンプル	42
"GO データ・ウェアハウス (分析)"パッケージのサンプル	44
"GO データ・ウェアハウス (クエリー)"パッケージのサンプル	52
"GO 販売 (分析)"パッケージのサンプル	54
"GO 販売 (クエリー)"パッケージのサンプル	54
プロンプト API サンプル	57
Cognos Mobile のサンプル	58
Cognos Workspace サンプル	60
"GO データ・ウェアハウス (分析)"パッケージのサンプル	60

"GO データ・ウェアハウス (クエリー)"パッケージのサンプル60
Java サンプルの使用61
Windows オペレーティング・システムにおける Java サンプルの設定62
Linux およびUNIX オペレーティング・システムの Java 設定63
IBM Cognos Analysis Studio サンプル64
「組み合わせフィルター」サンプル64
「カスタマイズしたランキング」サンプル64
製品ブランド別四半期累計の成長64
小売業者別プロモーション上位 10 件64
実収益と予定収益の差64
製品ブランド別の収益と総利益率の対比65
IBM Cognos Query Studio サンプル65
"GO データ・ウェアハウス (分析)"パッケージのサンプル65
"GO 販売 (クエリー)"パッケージのサンプル65
第 6 章 Sample Outdoors 組織およびスキーマ67
ウェアハウス・スキーマ70
トランザクション・スキーマ72
索引75

第 1 章 Cognos Analytics サンプル

IBM® Cognos® Analytics には、ダッシュボード、ストーリー、レポート、データ・モジュール、およびサンプル・データベースを幅広く揃えたコレクションが用意されています。これらのサンプルによって、Cognos Analytics の多数の機能の使用方法が例証されています。

Cognos Analytics サンプルには 4 つのカテゴリがあります。

基本サンプル

基本サンプルは、Cognos Analytics サーバー・インストールと一緒に組み込まれています。これらのサンプルには、サンプルを使用するために必要なすべてのデータが入っています。

これらのサンプルを使用する方法については、3 ページの『第 2 章 基本サンプルの使用』を参照してください。

拡張サンプル

拡張サンプルは、Cognos Analytics サンプルをインストールすると利用可能になります。これは広範囲に及ぶサンプルのセットであり、サンプル・データベースをホストするためには、IBM DB2®、Microsoft SQL Server、または Oracle データベースを使用する必要があります。

これらのサンプルのインストールおよび設定については、5 ページの『第 3 章 拡張サンプルのインストールと設定』を参照してください。

補足サンプル

IBM Cognos Analytics Web サイトには、追加のサンプルがあります。それには、旧リリースの Cognos Analytics に付属していた補足サンプルが含まれます。

補足サンプルは Supplementary (Legacy) IBM Cognos Analytics 11 Samples (<https://www.ibm.com/communities/analytics/cognos-analytics-blog/supplementary-ibm-cognos-analytics-11-samples/>) から入手できます。

これらのサンプルのインストールおよび設定については、19 ページの『第 4 章 補足サンプルのインストールと設定』を参照してください。

その他のオンライン・サンプル

時折、その他のサンプルが IBM Cognos Analytics Web サイトで利用可能になることがあります。

それらのサンプルは Samples Landing Page – IBM Analytics Communities (<https://www.ibm.com/communities/analytics/cognos-analytics-blog/samples-landing-page/>) で入手できます。

第 2 章 基本サンプルの使用

IBM Cognos Analytics サーバーの簡易インストールを実行するか、またはカスタム・インストールでサンプルのチェック・ボックスを選択すると、デフォルトで基本サンプルがインストールされます。

基本サンプルは、`cognos_analytics_server_install_location\samples` フォルダにインストールされます。このフォルダにはいくつかのサブフォルダがあり、そこにサンプルと関連データが入っています。

data このフォルダには、`Samples_for_Install.zip` 配布に含まれるデータのソース・ファイルが入っています。

deployment

このフォルダには `Samples_for_Install.zip` 配布が入っています。このファイルは、Cognos Analytics サーバー・インストールの配布フォルダにもインストールされます。これらのサンプルのインポートについては、『基本サンプルのインポート』を参照してください。

embedded_content

このフォルダには、埋め込みコンテンツを含む認証サンプルが入っています。このサンプルの使用方法については、「*IBM Cognos Analytics Getting Started User Guide*」で、Cognos Analytics コンテンツの共有および埋め込みに関するトピックを参照してください。

extensions

このフォルダには、カスタマイズ拡張サンプルが入っています。これらのサンプルの使用方法については、「*IBM Cognos Analytics Managing User Guide*」でカスタマイズ・サンプルに関するトピックを参照してください。

JavaScript

このフォルダには、JavaScript サンプルが入っています。このサンプルの使用方法については、フォルダ内にある PDF ファイルを参照してください。

themes

このフォルダには、カスタマイズ・テーマ・サンプルが入っています。これらのサンプルの使用方法については、「*IBM Cognos Analytics Managing User Guide*」でカスタマイズ・サンプルに関するトピックを参照してください。

基本サンプルのインポート

以下の指示に従って、基本サンプルを IBM Cognos Analytics サーバー・インストールにインポートします。

手順

1. 「管理」 > 「管理コンソール」を使用して、**IBM Cognos Administration** を開きます。

2. 「設定」タブで、「コンテンツ管理」をクリックします。
3. ツールバーの「インポートの新規作成」ボタンをクリックします。
4. 「インポートの新規作成」ウィザードの最初の手順で「**Samples_for_Install**」を選択し、ウィザードの残りの手順を完了します。

タスクの結果

サンプルは「チーム内容」の Get Started、Samples、および Templates のフォルダーにあります。

第 3 章 拡張サンプルのインストールと設定

サンプルを設定するには、いくつかのタスクを実行する必要があります。例えば、サンプル・データベースの復元や、データ・ソース接続の作成などです。

サンプルを設定したら、そのサンプルを使用して、IBM Cognos Analytics ソフトウェアの使用方法を学習できます。

IBM Cognos Analytics には、サンプル・データベースが付属しており、これらのデータベースには Sample Outdoors 社という架空のスポーツ用品販売企業に関する販売、マーケティング、および財務に関する情報が格納されています。

サンプル・データベースを使用する前に、IBM Cognos Analytics のインストール、設定、実行と、IBM Cognos Analytics サンプルのインストールが必要です。

Cognos Analytics サンプルのインストール

IBM Cognos Analytics サンプルは、Cognos Analytics サーバーとは別にインストールします。

以下のトピックでは、Cognos Analytics サンプルのインストール方法について説明します。Cognos Analytics サンプルをインストールすると、それらは `cognos_samples_installation_locationwebcontent/samples` に格納されます。このフォルダーには、以下のサブフォルダーがあります。

content

このフォルダーには、サンプル配布アーカイブが入っています。

datasources

このフォルダーには、サンプル・データベースが入っています。

models

このフォルダーには、サンプル IBM Cognos Framework Manager モデルが入っています。

Windows へのサンプルのインストール

次の手順に従って、Microsoft Windows オペレーティング・システムに拡張 IBM Cognos Analytics サンプルをインストールします。

手順

1. インストール・ファイルをダウンロードした場所に移動します。
`bisamples%build-number` ディレクトリーから `ca_samples_winx64_build-number.exe` を実行します。
2. インストール・ウィザードのステップを完了します。

タスクの結果

デフォルトでは、サンプルは `installation_location%cognos%samples\webcontent` にインストールされます。このディレクトリーは、Cognos Analytics インストール・ディレクトリー (`installation_location%cognos%analytics`) とは異なります。

UNIX または Linux へのサンプルのインストール

次の手順に従って、UNIX または Linux オペレーティング・システムで IBM Cognos Analytics サンプルをインストールします。

注: `issetup` コマンドを X Window で使用した場合、メッセージやログ・ファイルの日本語文字が文字化けすることがあります。UNIX 上に日本語環境でインストールする場合は、最初に環境変数を `LANG=C` および `LC_ALL=C` のように設定し (ここで、C は言語コードを表し、例えば Solaris では `ja_JP.PCK` となります)、無人インストールを実行します。

X Window を使用しない場合は、無人インストールを実行します。

手順

1. インストール・ファイルをダウンロードしたオペレーティング・システムのディレクトリーに移動します。サンプル・ファイルは `bisamples%build-number` ディレクトリーにあります。
2. 次のコマンドを入力します。 `./ca_samples_platform_build-number`

IBM AIX® にインストールするために使用するコマンドの例は、
`./ca_samples_aix64_11.0.0.15121603` です。

3. インストール・ウィザードの指示に従って、必要なファイルをコンピューターにコピーします。

タスクの結果

デフォルトでは、サンプルは `installation_location/cognos/samples/webcontent directory` にインストールされます。このディレクトリーは、Cognos Analytics インストール・ディレクトリー (`installation_location/cognos/analytics`) とは異なります。

サンプル・データベースのバックアップ・ファイルの復元

IBM Cognos Analytics のサンプルを使用するには、サンプル・データベースのバックアップ・ファイルを復元する必要があります。この操作を行うと、多言語バージョンの Samples Outdoors データベースが作成されます。

Db2 サンプル・データベース

IBM Db2 データベースにサンプル・データベースをセットアップすることができます。

Db2 サンプル・データベースと関連ファイルは、
<cnos_samples_installation_location>/webcontent/samples/datasources/Db2
にあります。GS_DB.tar.gz を解凍します。解凍すると、GS_DB フォルダーと以下の
サブフォルダーが作成されます。

data このフォルダーにはデータベース・ファイルが入っています。

logs このフォルダーには、スクリプトを実行したときに作成されるログが入りま
す。

unix このフォルダーには、Unix および Linux 用スクリプトが入っています。

win このフォルダーには、Microsoft Windows 用スクリプトが入っています。

IBM Db2 のサンプル

Db2move (データベース移動ツール・コマンド) のデータ・ファイルと、制約を追加
するためのスクリプトは、data ディレクトリーに配置されます。

Microsoft Windows 環境で WinZip を使用して Db2 移動ファイルを解凍する場合
は、「TAR file smart CR/LF conversion」オプションを必ずオフにします。

Db2 移動ファイルの解凍後、スキーマを GS_DB という名前のデータベースに復元
します。

表示、制約、ユーザー権限、ストアド・プロシージャを GS_DB に追加するに
は、サンプルに含まれている gs_db_modify ファイルを次の順序で準備して実行し
ます。

1. gs_db_modify.sql にあるユーザー名とパスワードを更新してファイルを保存す
る
2. gs_db_modify.bat を実行する。

注: スクリプト・ファイルで、プロシージャが存在しないストアド・プロシージャ
を作成しようとすると、エラーが発生します。このエラーはサンプルに影響を
与えません。

Db2CODEPAGE 環境変数を 1208 という値に設定します。

GS_DB データベースを作成するときに、ページ・サイズが 32 KB のシステム・デ
フォルト・バッファ・プールと、関連付けられた REGULAR 表スペースを作成
します。システムの一時的表スペースも 32 KB であることを確認してください。

メモリー所要量は、ご使用のデータベース・システムのサイズおよびタイプによっ
て影響を受けます。表が列によって編成されている GO サンプル・データベース
は、一般的な行ベースのセットアップより多くのメモリーを必要とする可能性があ
ります。

スクリプトを使用した IBM Db2 へのサンプルの復元

スクリプトを使用して、Db2 用のサンプル・データベースのバックアップ・ファイ
ルを復元できます。

サンプル・データベースを設定するには、GS_DB.tar.gz ファイルを解凍し、設定フ
ァイルをカスタマイズして、設定スクリプトを実行することが必要です。

Linux、UNIX、Windows で Db2 用の Great Outdoors サンプル・データベースをインストールする際の前提条件があります。サンプル・データベースをインストールするには、権限を確認または設定しておく必要があります。

1. GS_DB.tar.gz ファイルを解凍し、元のディレクトリー構造を保持します。
Microsoft Windows オペレーティング・システムで WinZip を使用して Db2 移動ファイルを解凍する場合は、「TAR file smart CR/LF conversion」オプションを必ずオフにします。
2. Linux および UNIX オペレーティング・システムでは次のようにして、
setupGSDB.sh ファイルのファイル・アクセス権が実行可能になるように変更します: `chmod u+x setupGSDB.sh`
3. データベースの設定に使用するユーザー ID に DBADM 権限があるか、または Db2 の次の権限があることを確認します。
 - CREATETAB
 - CREATE_NOT_FENCED_ROUTINE
 - LOAD

オプション: 設定ファイルの編集

設定ファイルには、GOSALES データの作成時に使用されるデフォルトの設定オプションが含まれています。以下の表に、デフォルトの構成設定をリストします。

表 1. IBM Db2 へのサンプル復元のオプション値

構成設定	デフォルト	説明
GOSALES_INST	GS_DB	データベースの名前または別名を設定するために使用される。
GOSALES_BLU	N	列ごとに編成された表を作成する場合は「Y」に変更する。
GOSALES_CREATEDB		オプション: 同じ名前を持つ既存のデータベースが削除される。
GOSALES_DB_TERRITORY	US	データベースの作成時に、これが作成される UTF-8 データベースのテリトリーとなる。
GOSALES_BP GOSALES_TS	GOSALES_BP GOSALES_TS	オプション: バッファ・プールと表スペースの名前を入力する (スクリプトで作成する場合)。

表 1. IBM Db2 へのサンプル復元のオプション値 (続き)

構成設定	デフォルト	説明
GOSALES_GRANTEES	GOSALES、Db2ADMIN	"GOSALES"、 "GOSALESHR"、 "GOSALESMR"、および "GOSALESRT" スキーマに対 する CONTROL 権限を持つ ユーザーまたはグループのリ ストを入力するか、または PUBLIC と指定する。この文 字列は、GRANT コマンドの 構文に従う必要があります。
GOSALESDW_GRANTEES	GOSALESDW Db2ADMIN	"GOSALESDW"スキーマに対 する CONTROL 権限を持つ ユーザーまたはグループのリ ストを入力するか、または PUBLIC と指定する。
GOSALES_DPF	N	データベース・パーティショ ン・フィーチャー (DPF) 環 境をインストールする場合は 「Y」に変更する。
GOSALES_SCHEMA	GOSALES	各スキーマに使用する名前を 入力する。
GOSALESHR_SCHEMA	GOSALESHR	
GOSALESMR_SCHEMA	GOSALESMR	
GOSALESRT_SCHEMA	GOSALESRT	
GOSALESDW_SCHEMA	GOSALESDW	

サンプル設定ファイルをカスタマイズして、デフォルト値以外の設定を使用できま
す。

設定スクリプトにより、GS_DB データベース、表スペース、テーブル、ビューが作
成され、権限が付与され、サンプル・データベースのスキーマ名が変更されます。
ほとんどの場合、デフォルトのオプションをそのまま使用できます。データベース
名を変更したり、データに対する権限を持つユーザーまたはグループを変更したり
する必要がある場合は、"GOSalesConfig"設定ファイルを更新する必要があります。

テキスト・エディターを使用して設定ファイルを編集します。

注: Windows 環境で UNIX シェル・スクリプトを編集する場合は、必ず UNIX の
行末を保持するようにしてください。

Windows 用の設定ファイルは GOSalesConfig.bat です。UNIX 用の設定ファイ
ルは GOSalesConfig.sh です。

デフォルトでは、GS_DB データベース名が使用され、Db2ADMIN
(Linux、UNIX、Windows) および GOSALES ユーザーに権限が付与されます。

対話モードでの設定スクリプトの実行

対話モードでは、`setupGSDB` スクリプトによって、`GS_DB` データベースのインストールに対する設定情報を確認または入力するよう求めるプロンプトが表示されます。デフォルト設定をそのまま使用することも、デフォルトの代わりに別の設定を指定することもできます。

- 使用しているオペレーティング・システムの設定スクリプトを実行する。

表 2. サンプル復元スクリプトの実行

オペレーティング・システム	コマンド
Microsoft Windows	Db2 コマンド・ウィンドウで、 <code>GS_DB/win</code> ディレクトリーに移動して <code>setupGSDB.bat</code> スクリプトを実行します。
UNIX	シェル・プロンプトから、 <code>Db2profile</code> に <code>source</code> を実行し、 <code>GS_DB/unix</code> ディレクトリーに移動し、 <code>setupGSDB.sh</code> スクリプトを実行します。

- `Enter` キーを押して続行する。環境への変更をコミットする前に、スクリプトによって選択内容の概要が表示されます。選択内容を承認して `Enter` キーを押すと、スクリプトによって変更が加えられます。例えば、次のメッセージが表示されます。

```
Please confirm the following settings:
Database Name: GS_DB
Column-organized tables: N (Db2 on UNIX only)
Drop and Recreate Database: Y
DPF environment: N
Create a 32 K Bufferpool named: GOSALES_BP
Create a 32 K Tablespace named: GOSALES_TS
GOSALES Grant users/groups: GOSALES, Db2ADMIN
GOSALESBW Grant users/groups: GOSALESBW, Db2ADMIN
Administration User Name: Db2admin
Import the sample data to the following schemas:
GOSALES
GOSALESHR
GOSALESMR
GOSALESRT
GOSALESBW
WARNING: If the database GS_DB already exists it will be dropped
Continue creating the sample data with these settings? (Y/N) Default=Y:
```

`GS_DB` データベースが設定されます。

コマンド行オプションによる設定スクリプトの実行

"`setupGSDB`"スクリプトを使用すると、コマンド行に情報を入力することで、スクリプトのプロンプト数を減らすことができます。

コマンド行から、使用しているオペレーティング・システムのスクリプトを実行します。Windows では、`setupGSDB.bat` を使用します。UNIX または Linux オペレーティング・システムでは、`setupGSDB.sh` を使用します。

"`setupGSDB`"スクリプトで指定可能なオプションは次のとおりです。

表 3. IBM Db2 用の setupGSDB オプション

オプション	説明
-createdb	データベースを作成する。このオプションを選択すると、同じ名前を持つ既存のデータベースがすべて削除されます。また、必要なバッファ・プールと表スペースが作成されます。
-database database name	データベースの名前を指定する。この値により、GS_DB のデフォルト値が上書きされます。
-userid administration_user_ID	データベースの作成に使用する Db2 管理者ユーザー ID の名前を指定する。
-password administration_user_ID	Db2 管理者ユーザー ID のパスワードを指定する。
-noprompt	プロンプトが表示されないよう指定する。このオプションを選択すると、スクリプトはサイレント・モードで実行されます。情報の指定漏れがあると、スクリプトは失敗します。確認を求めるプロンプトは表示されません。

例 1: Db2 管理者が、ローカル・ノードにデフォルトの GS_DB データベースを作成する場合。次のコマンドを実行します。

```
setupGSDB -createDB -noprompt
```

例 2: "GSDBY" という既存のデータベース内にテーブルを作成し、管理者ユーザー ID として Db2admin を使用する場合。次のコマンドを実行します。

```
setupGSDB -database GSDBY -userid Db2admin
```

スクリプトでは、GSDBY への接続時にパスワードの入力を求めるプロンプトが表示されます。また、データベースを削除するよう選択しない限り、GSDBY データベース内にすでに存在するテーブルがすべて置換されます。

オプション: リモート・サーバーへのサンプル・データのインストール

GS_DB サンプル・データベースが環境内のリモート・サーバーにインストールされている場合は、ローカル・コンピューター上にリモート・データベースをカタログ化してリンクした上で、設定スクリプトをローカルで実行できます。

- リモート・サーバー上にサンプル・データベースがまだ存在していない場合は、CREATE DATABASE コマンドを使用して作成する。データベースには、UTF-8 コード・セットと、デフォルトおよび一時表スペース用の 32 KB のバッファ・プール・ページ・サイズが必要です。例えば、リモート・サーバー上で、次のコマンドを実行してデータベースを作成します。

```
CREATE
DATABASE GS_DB USING CODESET UTF-8 TERRITORY US PAGESIZE 32K
```

- ローカル・コンピューターで、リモート・データベースをカタログ化する。

```
Db2
catalog tcpip node nodename remote ipaddr server port_number
Db2 catalog database GS_DB as GS_DB at node nodename
```

- ローカル・コンピュータで、スクリプトを実行する。

```
setupGSDB
-database GS_DB -userid administration_user_ID
```

データベースに接続するためのパスワードを入力するよう求めるプロンプトが表示されます。

Oracle サンプル・データベース

Oracle データベースにサンプル・データベースをセットアップすることができます。

Oracle サンプル・データベースと関連ファイルは、
<cognos_samples_installation_location>/webcontent/samples/datasources/
oracle にあります。GS_DB_ORA.tar.gz を解凍します。解凍すると、GS_DB_ORA フォルダと以下のサブフォルダが作成されます。

データ

このフォルダにはデータベース・ファイルが入っています。

logs このフォルダには、スクリプトを実行したときに作成されるログが入りません。

unix このフォルダには、Unix および Linux 用スクリプトが入っています。

win このフォルダには、Microsoft Windows 用スクリプトが入っています。

Oracle のサンプル

さまざまなスキーマを参照するテーブルに外部キー制約を作成するには、
gs_or_modify.sql (data フォルダにあります) を実行する必要があります。

スクリプトを使用した Oracle へのサンプルの復元

スクリプトを使用して、Oracle 用のサンプル・データベースのバックアップ・ファイルを復元できます。

サンプル・データベースを設定するには、GS_DB_ORA.tar.gz ファイルを解凍し、設定ファイルをカスタマイズして、設定スクリプトを実行する必要があります。

Oracle 用の Great Outdoors サンプル・データベースをインストールする際には前提条件があります。サンプル・データベースをインストールするには、権限を確認または設定しておく必要があります。

- GS_DB_ORA.tar.gz ファイルを解凍し、元のディレクトリ構造を保持します。
- Linux および UNIX オペレーティング・システムでは次のようにして、
setupGSDB.sh ファイルのファイル・アクセス権が実行可能になるように変更します: `chmod u+x setupGSDB.sh`
- Oracle データベースの設定に使用するユーザー ID に、ユーザーを作成してインポート・ユーティリティを実行するための権限があることを確認します。

オプション: 設定ファイルの編集

設定ファイルには、GOSALES データの作成時に使用されるデフォルトの設定オプションが含まれています。

表 4. Oracle へのサンプル復元のオプション値

構成設定	デフォルト	説明
GOSALES_IMP_CMD	imp	必要に応じて変更し、正しいバージョンのインポート・ユーティリティーへの完全なパスを指定できる。
GOSALES_INST		Oracle のホスト文字列。
GOSALES_TS	GOSALES_TS	スクリプトによってユーザーが作成された場合、ユーザーに割り当てる表スペースの名前を入力するために使用する。
GOSALES_CREATE_TS		オプション: ユーザーに対してデフォルトの表スペースを作成するために使用する。
GOSALES_TEMP_TS		スクリプトによってユーザーが作成された場合、ユーザーに割り当てる一時表スペースの名前を指定するために使用する。デフォルトの一時表スペースを使用するには、空白のままにします。
GOSALES_SCHEMA GOSALES_SCHEMA_PW	GOSALES GOSALESPW	GOSALES ユーザーのユーザー名とパスワードを入力するために使用する。入力しない場合、パスワードの入力を求めるプロンプトが表示されます。
GOSALESHR_SCHEMA GOSALESHR_SCHEMA_PW	GOSALESHR GOSALESHRPW	GOSALESHR ユーザーのユーザー名とパスワードを入力するために使用する。入力しない場合、パスワードの入力を求めるプロンプトが表示されます。
GOSALESMR_SCHEMA GOSALESMR_SCHEMA_PW	GOSALESMR GOSALESMRPW	GOSALESMR ユーザーのユーザー名とパスワードを入力するために使用する。入力しない場合、パスワードの入力を求めるプロンプトが表示されます。
GOSALESSRT_SCHEMA GOSALESSRT_SCHEMA_PW	GOSALESSRT GOSALESSRTPW	GOSALESSRT ユーザーのユーザー名とパスワードを入力するために使用する。入力しない場合、パスワードの入力を求めるプロンプトが表示されます。
GOSALESDW_SCHEMA GOSALESDW_SCHEMA_PW	GOSALESDW GOSALESDWPW	GOSALESDW ユーザーのユーザー名とパスワードを入力するために使用する。入力しない場合、パスワードの入力を求めるプロンプトが表示されます。

表 4. Oracle へのサンプル復元のオプション値 (続き)

構成設定	デフォルト	説明
GOSALES_GRANTEES	GOSALES	"GOSALES"、"GOSALESHR"、 "GOSALESMR"、および "GOSALESRT" スキーマに対する SELECT、INSERT、DELETE、 UPDATE、および ALTER 権限を持 つユーザーを入力するために使用す る。 注: GOSALES_SCHEMA の所有者 には常に、すべてのスキーマに対す る SELECT、INSERT、 DELETE、UPDATE、および ALTER 権限が付与されます。
GOSALESDW_GRANTEES	GOSALESDW	"GOSALESDW"スキーマに対する SELECT、INSERT、DELETE、 UPDATE、および ALTER 権限を持 つユーザーを入力するために使用す る。

サンプル設定ファイルをカスタマイズして、デフォルト値以外の設定を使用できま
す。

設定ファイルで指定されているユーザーとスキーマが設定スクリプトによって作成
されます。ほとんどの場合、デフォルトのオプションをそのまま使用できます。ス
キーマ名を変更したり、データに対する権限を持つユーザーまたはグループを変更
したりする必要がある場合は、"GOSalesConfig"設定ファイルを更新する必要があります。

テキスト・エディターを使用して、設定ファイル GOSalesConfig.bat または
GOSalesConfig.sh を編集します。

対話モードでの設定スクリプトの実行

対話モードでは、setupGSDB スクリプトによって、サンプル・データベースのイン
ストールに対する設定情報を確認または入力するよう求めるプロンプトが表示され
ます。デフォルト設定をそのまま使用することも、デフォルトの代わりに別の設定
を指定することもできます。

- 使用しているオペレーティング・システムの設定スクリプトを実行する。

表 5. サンプル復元スクリプトの実行

オペレーティング・システム	コマンド
Microsoft Windows	DOS コマンド・ウィンドウで、 GS_DB_ORA\win ディレクトリーに移動し、 setupGSDB.bat スクリプトを実行する
UNIX	シェル・プロンプトから、GS_DB_ORA/unix ディレクトリーに移動し、setupGSDB.sh ス クリプトを実行する

- Enter キーを押して続行する。環境への変更をコミットする前に、スクリプトによってサンプル・データベースの設定が実行され、選択内容の概要が表示されます。選択内容を承認して Enter キーを押すと、スクリプトによって変更が加えられます。例えば、次のメッセージが表示されます。

Please confirm the following settings:

```
Instance Name is ORAINST123
Create the following user accounts and import the data:
GOSALES
GOSALESHR
GOSALESMR
GOSLAESRT
GOSALESDW
```

```
Default tablespace is GOSALES_TS
Temporary tablespace is DEFAULT
Administration User name is sys
```

WARNING: If the users already exist they will be dropped

Create a Tablespace named GOSALES_TS

```
Grant select on the GOSALES schemas to GOSALES
Grant select on the GOSALESDW schema to GOSALESDW
```

Continue creating the sample data with these settings?
(Y/N) Default=Y:

ヒント: Windows 環境で UNIX シェル・スクリプトを編集する場合は、必ず UNIX の行末を保持するようにしてください。

コマンド行オプションによる設定スクリプトの実行

"setupGSDB"スクリプトを使用すると、コマンド行に情報を入力することで、スクリプトのプロンプト数を減らすことができます。

コマンド行から、使用しているオペレーティング・システムのスクリプトを実行します。Windows では、setupGSDB.bat を使用します。UNIX または Linux オペレーティング・システムでは、setupGSDB.sh を使用します。

"setupGSDB"スクリプトで指定可能なオプションは次のとおりです。

表 6. Oracle 用の setupGSDB オプション

オプション	説明
-createdb	ユーザーを作成する。このオプションを選択すると、同じ名前を持つ既存のユーザーがすべて削除されます。
-database database name	Oracle インスタンスの名前を指定する。この値により、設定ファイルで指定されているデフォルト値が上書きされます。
-userid administration_user_ID	ユーザーの作成に使用する Oracle 管理者ユーザー ID の名前を指定する。
-password administration_user_ID	Oracle 管理者ユーザー ID のパスワードを指定する。

表 6. Oracle 用の setupGSDB オプション (続き)

オプション	説明
-noprompt	プロンプトが表示されないよう指定する。このオプションを選択すると、スクリプトはサイレント・モードで実行されます。情報の指定漏れがあると、スクリプトは失敗します。確認を求めるプロンプトは表示されません。

例 1: Oracle 管理者が、デフォルトのサンプル・データベース・スキーマを作成する場合。次のコマンドを実行します。

```
setupGSDB -createdb -noprompt
```

例 2: 設定ファイルで指定されている既存のスキーマにテーブルを作成し、管理者ユーザー ID として sys を使用する場合。次のコマンドを実行します。

```
setupGSDB -YourOracleInstance -userid sys -sysdba
```

スクリプトでは、Oracle インスタンスへの接続時にパスワードの入力を求めるプロンプトが表示されます。また、指定されたスキーマ内の既存のテーブルまたはビューがすべて削除され、置換されます。

SQL Server サンプル・データベース

Microsoft SQL Server データベースにサンプル・データベースをセットアップすることができます。

SQL Server サンプル・データベースは、
<cnos_samples_installation_location>/webcontent/samples/datasources/
sqlserver にあります。GOSALES と GOSALESDW という名前のデータベースを SQL Server に作成し、それぞれ GOSALES.zip と GOSALESDW.zip を使用して、デバイスからデータベースを復元します。

サンプル・データベースへのデータ・サーバー接続の作成

IBM Cognos Analytics では、サンプル・データベースへのデータ・サーバー接続を使用してサンプル・データベースに接続し、サンプル・レポートを実行したり、サンプル・パッケージを使用したりします。

great_outdoors_sales と **great_outdoors_warehouse** という 2 つのデータ・サーバー接続を作成する必要があります。使用しているデータベース・ベンダーに応じて、以下の考慮事項に注意してください。

Microsoft SQL Server

great_outdoors_sales 接続のデータベース名は GOSALES で、
great_outdoors_warehouse 接続のデータベース名は GOSALESDW です。

IBM Db2

どちらの接続も、データベース名は GS_DB です。

Oracle

どちらの接続についても、`tnsnames.ora` に指定されている Oracle データベースのインスタンス名を使用します。

次の 2 つの方法のいずれかでデータ・サーバー接続を作成します。

- **IBM_Cognos_Samples_CQ_Legacy** 配布を使用する場合は、「*IBM Cognos Analytics Administration and Security Guide*」のデータ・ソース接続の作成に関するトピックに示されている手順に従います。
- **IBM_Cognos_Samples_CQ_Legacy** 配布を使用しない場合は、「*IBM Cognos Analytics Managing User Guide*」のデータ・サーバー接続の作成に関するトピックに示されている手順に従います。

拡張サンプルのインポート

サンプルのパッケージとその他のコンテンツを使用するには、サンプルの配布アーカイブをインポートする必要があります。

このタスクについて

IBM Cognos Analytics Samples では、`<cognos_analytics_samples_installation_location>%webcontent%samples%content` に以下の配布が含まれています。

- **IBM_Cognos_Samples**
- **IBM_Cognos_Prompt_API**
- **IBM_Cognos_Audit**
- **IBMCognos10¥IBM_Cognos_Samples_CQ_Legacy**
- **IBMCognos10¥IBM_Cognos_Samples_DQ_Legacy**

手順

1. Cognos Configuration で指定したソースの場所から「配布ファイルの場所」へ、配布アーカイブ (.zip) ファイルをコピーします。「配布ファイルの場所」のデフォルトの場所は `<cognos_analytics_server_installation_location>/deployment` です。
2. 「管理」 > 「管理コンソール」を使用して、**IBM Cognos Administration** を開きます。
3. 「設定」タブで、「コンテンツ管理」をクリックします。
4. ツールバーの「インポートの新規作成」ボタンをクリックします。
5. 「インポートの新規作成」ウィザードの最初の手順でインストールする配布を選択し、ウィザードの残りの手順を完了します。
6. インストールする配布ごとに、前述のステップを繰り返します。

タスクの結果

これで、サンプル・パッケージを使用してレポートと分析を作成できるようになりました。また、「チーム内容」にあるサンプル・レポートを実行することもできます。

Cognos Framework Manager サンプル・データベース・モデル

サンプル・モデルには、Sample Outdoors Company という架空の小売業者に関する情報が含まれています。

サンプルは < cognos_samples_installation_location >/webcontent/samples/models にあり、以下の内容が含まれています。

- great_outdoors_sales: このモデルではサンプル・データベース"GOSALES"が参照されます。
- great_outdoors_warehouse: このモデルではデータベース"GOSALESDW"が参照されます。

サンプルのデータベース・モデルは、さまざまなプラットフォームで使用できます。モデルの別のプラットフォームへの移動については、「IBM Cognos Framework Manager ユーザー・ガイド」を参照してください。

注: Transformer では、"GO データ・ウェアハウス (クエリー)"パッケージの一部のレポートが、さまざまなキューブのソース・データとして使用されます。これらのレポートは、書式設定されていない単純なリスト・レポートとして作成されています。レポートの説明情報により、レポートが Transformer 用のソース・データになるように作成されているかどうかを示されます。

"GO 販売"モデル

このモデルには、Sample Outdoors 社という架空の企業に関する販売分析情報が格納されています。また、Event Studio サンプルで必要なクエリー・アイテムも含まれます。このモデルは 3 つのスキーマにアクセスし、2 つのパッケージを含みます。1 つのパッケージはディメンション・ビューに基づいており、もう 1 つのパッケージはクエリー (リレーショナル) ビューに基づいています。

"GO データウェアハウス"モデル

このモデルには、Sample Outdoors 社という架空の企業に関する財務、人事、販売、およびマーケティング情報が格納されています。このモデルでは、ディメンション・リレーショナル・データ・ソースへのアクセスが行われます。このモデルには 2 つのパッケージがあります。1 つのパッケージはディメンション・ビューに基づいており、もう 1 つのパッケージはクエリー (リレーショナル) ビューに基づいています。

第 4 章 補足サンプルのインストールと設定

補足サンプルは、拡張サンプルとは一緒にインストールされなくなったサンプルです。これらのサンプルを IBM Cognos Analytics Web サイトからダウンロードしてインストールすることができます。

補足サンプルをダウンロードするには、Supplementary (Legacy) IBM Cognos Analytics 11 Samples (<https://www.ibm.com/communities/analytics/cognos-analytics-blog/supplementary-ibm-cognos-analytics-11-samples/>) に移動して、LegacySamples.zip をダウンロードします。この .zip ファイルを解凍します。このファイルには Samples フォルダがあり、その中に補足サンプルが入ったサブフォルダがあります。以下のトピックでは、それらのサンプルをインストールおよび設定する方法を説明します。

Microsoft Analysis Services のキューブ・サンプルの設定

補足サンプルには、Microsoft Analysis Services (MSAS) 用のキューブが含まれています。

MSAS のキューブは Samples\datasources\cubes\MSAS にあり、MSAS の配布は Samples\content\MSAS にあります。

財務データについては、"GOSALESDW"データベースから取得される"GO 財務ファクト"キューブを使用します。このキューブには、すべてのアカウントの年間累計、月次財務データが含まれるため、Analysis Studio、Query Studio、Reporting で財務明細書を作成できます。このデータは、2004、2005、2006、2007 (7 カ月の実績データのみ) の各年に対する米ドルの送信データです。

MSAS2005 バージョンは"GOFinanceFact_XX.abf"ファイルにあります。"XX"は言語を表しています。例えば、"XX"は英語を表す"EN"で置き換えられます。MSAS2008 バージョンのキューブも存在しますが、2005 バージョンのレポート・コンテンツのみが含まれます。

販売データについては、"GOSALESDW SQLSERVER"データベースに基づく"GOSalesFact_XX"Analysis Services データベースから取得される"GOSalesFact"キューブを使用します。このキューブには、単位原価、単価、数量、総利益などの数値データが格納されています。ディメンションには、"時間"、"製品"、"小売業者"などがあります。

MSAS2005 バージョンは、GOSalesFact_XX.abf という復元可能なバックアップ・ファイルにあります。

該当する Microsoft Analysis Services が動作し、GOSALESDW データベースがホストされている Microsoft SQL Server に、これらのファイルを復元する必要があります。

注: MSAS キューブとのデータ・ソース接続を確立するため、Microsoft XML 6.0 Parser および Microsoft SQL 2005 Analysis Services 9.00 OLEDB Provider の両方がローカル・クライアントにインストールされている必要があります。

手順

1. Microsoft SQL Server の Analysis Servers のコンソールからアクセスできるディレクトリーに"GOSALESDW.cab"ファイルと"GOSALESDW.abf"をコピーします。
2. Microsoft Analysis Services Analysis Manager を使用して、"GOSALESDW.cab"ファイルと"GOSALESDW.abf"ファイルからデータベースを復元します。

タスクの結果

これで、復元した"GOSalesFact_XX"キューブまたは"GOFinanceFact_XX"キューブのいずれかを参照することにより、Cognos Administration でこれらの MSAS データ・ソースへのデータ・ソース接続を作成できるようになりました。

Essbase キューブ・サンプルの設定

補足サンプルには Essbase キューブ・サンプルが含まれています。

キューブ・サンプルは、

`Samples¥datasources¥cubes¥Essbase¥Outlines_and_Raw_Data` にあります。

Essbase キューブ・サンプルを設定するには、Oracle Essbase と Essbase Integration Services Console がインストールされている必要があります。別の方法として、さらに小さな Essbase キューブである GODBReduced.zip を設定することもできます。このキューブは、フルバージョンである GODWENU にフィルターをかけたバージョンです。この小さなバージョンをセットアップするには、GODBReduced.zip を unzip して、otl と txt ファイルを Essbase 環境にロードしてから、以下の手順を実行します。

手順

1. 適切な言語の zip ファイルを展開します。

各 zip ファイルには、次の 2 つのファイルが格納されています。

- <言語>U_Data.txt (ENU_Data.txt や JAU_Data.txt など)
- GODW<言語>U.otl (GODWENU.otl や GODWJAU.otl など)

2. Essbase でブロック・ストレージを使用して Unicode アプリケーションを作成します。
3. アプリケーション内で新しいデータベースを作成します。

データベース名には GODW<言語>U という形式 (GODWENU や GODWJAU など) を使用しても、他の任意の名前を使用してもかまいません。

4. GODW<言語>U.otl ファイルをコピーしてデータベース・ディレクトリーに貼り付けます。

- 手順 4 でデータベース名に GODW<言語>U という形式ではない名前を付けた場合は、作成したデータベース名と一致するように GODW<言語>U.ot1 ファイルの名前を変更します。

ot1 ファイルを上書きするかどうかの確認を求められたら「はい」と答えます。

- 「**Essbase Administration Services**」コンソールでデータベース・アウトラインを開いて保存します。

変更していない場合でもアウトラインを保存するかどうかの確認を求められたら「はい」と答えます。

- <言語>U_Data.txt ファイルをコピーして、ot1 ファイルと同じディレクトリーに貼り付けます。
- 「**Essbase Administration Services**」コンソールで、作成したデータベースを右クリックし、「データのロード」を選択します。
- データベース・ディレクトリーにある <言語>U_Data.txt ファイルを参照して、ファイルを選択し、「OK」をクリックします。
- データが正常にロードされたら、データベースを右クリックし、「**Execute Calculation**」を選択します。
- デフォルトの計算を選択し、「OK」をクリックします。

Essbase OLAP Server がインストールされているコンピューターによっては、この計算プロセスに最大で 5 時間ほどかかる場合があります。

タスクの結果

これで、キューブへのデータ・ソース接続が作成できるようになりました。

OLAP データ・ソースへのデータ・ソース接続の作成

データにアクセスするには、OLAP データ・ソース・サンプルへのデータ・ソース接続を作成する必要があります。

データ・ソース接続を作成する前に、Microsoft Analysis Services キューブ・サンプルと Oracle Essbase キューブ・サンプルを設定する必要があります。

サンプルは、デフォルトですべてのユーザーがアクセスできます。カスタマイズしたデータ・ソースを作成するには、保護されている特性の「データ・ソース接続」に対する実行権限と、保護されている「管理」機能に対する通過権限が必要です。Cognos ネームスペースに対する書き込み権限を持っていることが必要です。


以下の OLAP データ・ソースは、Samples¥datasources¥cubes にあります。

- Microsoft Analysis Services キューブ ("GO 販売ファクト"および"GO 財務ファクト")
- "Sample Outdoors 社"キューブ ("sales_and_marketing"、"employee_expenses"、"go_accessories"、"go_americas"、"go_asia_pacific"、"great_outdoors_sales_en"など)
- Db2 キューブ ("Sample Outdoors")

PowerCubes ヘデータ・ソース接続の作成

次の手順に従って、PowerCube へのデータ・ソース接続を作成します。

手順

1. IBM Cognos Administration で、「設定」タブをクリックします。
2. 「データ・ソースの新規作成」ボタン  をクリックします。
3. "販売とマーケティング"キューブのデータ・ソース接続を作成するには、「名前」ボックスに「sales_and_marketing」と入力し、「次へ」をクリックします。
4. 接続のページの「タイプ」の下で、「IBM Cognos PowerCube」をクリックし、次に「次へ」をクリックします。

選択したデータベースの接続文字列のページが表示されます。

5. オプション:「読み込みキャッシュ・サイズ (MB)」ボックスに、キューブのキャッシュ・サイズをメガバイト単位で入力します。

ppds_cfg.xml ファイルに指定されているデフォルト値を使用するには、このフィールドを空白にしておくか、あるいは 0 を入力してください。

6. 「Windows での場所」ボックスに、データ・ソース接続用の "sales_and_marketing.mdc" ファイルの場所と名前を入力します。例えば、次のように入力します。

```
<インストール場所>/webcontent/samples/datasources/cubes/PowerCubes/En/  
Sales_and_Marketing.mdc
```

Microsoft Windows オペレーティング・システムのパスまたは UNIX オペレーティング・システムのパスを定義できます。

UNIX パスを定義して、Framework Manager の使用を計画している場合、Windows パスも定義することにより、キューブが Windows ロケーションでも確実に利用可能になるようにする必要があります。Framework Manager がキューブにアクセスできるのは Windows ロケーションからのみです。

7. パラメーターが正しいかどうかをテストするには、次の操作を実行します。
 - 「接続をテスト」をクリックします。
 - 「テスト」をクリックします。
 - テストの終了後に、「閉じる」を 2 回クリックします。
8. 「完了」をクリックします。

タスクの結果


次に、このデータ・ソースを使用するために PowerCube の IBM_Cognos_Powercube.zip サンプル・パッケージをインポートします。または、キューブを使用して独自のパッケージを作成することもできます。

Oracle Essbase キューブヘデータ・ソース接続の作成

次の手順に従って、Oracle Essbase キューブへのデータ・ソース接続を作成します。

注: Oracle Essbase データ・ソースに接続するには、IBM Cognos Analytics Server 上の IBM Cognos Framework Manager と同じ場所にクライアント・ソフトウェアをインストールして設定する必要があります。

手順

1. IBM Cognos Administration で、「設定」タブをクリックします。
2. 「データ・ソースの新規作成」ボタン  をクリックします。
3. 「名前と説明を指定」ページに一意的データ・ソース名を入力し、必要に応じて説明や画面のヒントを入力し、「次へ」を選択します。
4. 接続のページの「タイプ」ドロップダウン・リストで、「**Oracle Essbase**」をクリックし、次に「次へ」を選択します。接続文字列のページが表示されます。
5. Oracle Essbase サーバーの名前を入力します。
6. 「サインオン」を選択してから、「パスワード」と「すべてのユーザー」グループで使用できるサインオンを作成」をクリックします。
7. ユーザー ID とパスワードを入力してから、キューブのパスワードを確認します。
8. 「接続をテスト」、「テスト」の順に選択し、パラメーターが正しいかどうかをテストします。「ステータス」欄に、接続に成功したかどうかが表示されます。成功しなかった場合は、「閉じる」を選択して前のステップに戻り、接続パラメーターを確認してください。成功した場合は、次のステップに進みます。
9. 「終了」をクリックします。


タスクの結果

このデータ・ソースを使用するには、Framework Manager でこのデータ・ソースのパッケージを作成し、パッケージを発行する必要があります。

Microsoft Analysis Service キューブへデータ・ソース接続の作成

次の手順に従って、Microsoft Analysis Service キューブへのデータ・ソース接続を作成します。

手順

1. IBM Cognos Administration で、「設定」タブをクリックします。
2. 「データ・ソースの新規作成」ボタン  をクリックします。
3. 「名前」ボックスにデータ・ソース接続の名前を入力し、「次へ」をクリックします。
 - "GOFinanceFact"キューブの場合は、「GOFinanceFact_XX_MSAS2005」と入力します。
 - "GOSalesFact"キューブの場合は、「GOSalesFact_XX_MSAS2005」と入力します。
4. 「データ・ソースの新規作成ウィザード」の「接続を指定」ページで、「**Microsoft Analysis Services 2005**」をクリックします。

5. 「次へ」をクリックします。
6. 「サーバー名」ボックスに、復元したデータベースが存在するサーバーの名前を入力します。バックスラッシュは必要ありません。
7. 「サインオン」にある「パスワード」チェック・ボックスを選択し、「すべてのユーザー・グループで使用できるサインオンを作成」チェック・ボックスを選択します。MSAS2005 データベースのユーザー ID とパスワードを入力します。MSAS2005 の場合は、ネットワーク・ログオンになります。
8. 「接続をテスト」をクリックし、「テスト」ボタンをクリックします。「閉じる」をクリックします。
9. 「終了」をクリックします。ここで、パッケージを作成するためのプロンプトが表示されます。

別の方法として、サンプル配布アーカイブから既存のパッケージを配布することもできます。配布アーカイブの名前は、手順 4 で指定したデータ・ソース接続の名前と一致しており、関連するキューブとともに動作するサンプル・レポートが格納されています。

IBM Cognos Administration の「設定」タブの「コンテンツ管理」で、「インポートの新規作成」をクリックします。インポートの新規作成ウィザードによって、配布アーカイブの選択を求めるプロンプトが表示されます。配布アーカイブを選択するときには、「編集」をクリックし、パッケージのターゲット名を指定して、既存のパッケージが上書きされないようにすることが重要です。

10. パッケージを作成するには、「パッケージを作成」を選択して、「OK」をクリックします。
11. パッケージ名を指定して、「OK」をクリックします。
 - "GO 財務ファクト"キューブの場合は、「GOFinanceFact_XX_MSAS2005」と入力します。
 - "GO 販売ファクト"キューブの場合は、「GOSalesFact_XX_MSAS2005」と入力します。
12. 復元した Analysis Services データベース、つまり "GOFinanceFact_XX"か"GoSalesFact_XX"のどちらかを指定します。
 - "GOFinanceFact"キューブか"GOSalesFact"キューブの場合は、「GOSALESDW」と入力します。
 - "GO 販売ファクト"キューブの場合は、「GO 販売ファクト」と入力します。
13. データベースに該当するキューブをクリックします。
14. 「完了」をクリックします。

補足サンプルのインポート

補足サンプルのパッケージとその他のコンテンツを使用するには、補足サンプルの配布アーカイブをインポートする必要があります。

始める前に

IBM_Cognos_PowerCube.zip 以外の配布アーカイブをインポートする前に、データベースを復元する必要があります。さらに、サンプル・データベースへのデータ・ソース接続も作成します。レポートを実行するには、配布ごとにデータ・ソース接続が必要となります。詳細については、16 ページの『サンプル・データベースへのデータ・サーバー接続の作成』を参照してください。

IBM_Cognos_PowerCube.zip 配布アーカイブをインポートする前に、適切な PowerCube へのデータベース接続を作成し、使用する言語を選択する必要があります。選択する言語は、使用するロケールでサポートされている必要があります。

このタスクについて

以下の配布は Samples¥content にあります。

- IBM_Cognos_DrillThroughSamples
- IBM_Cognos_DynamicCube
- IBM_Cognos_Metrics
- IBM_Cognos_Office
- IBM_Cognos_PowerCube
- IBM_Cognos_PowerPlay

手順

1. Cognos 構成で指定したソースの場所から「配布ファイルの場所」へ、配布アーカイブ (.zip) ファイルをコピーします。「配布ファイルの場所」のデフォルトの場所は `<cognos_analytics_server_installation_location>/deployment` です。
2. 「管理」 > 「管理コンソール」を使用して、**IBM Cognos Administration** を開きます。
3. 「設定」タブで、「コンテンツ管理」をクリックします。
4. ツールバーの「インポートの新規作成」ボタンをクリックします。
5. 「インポートの新規作成」ウィザードの最初の手順でインストールする配布を選択し、ウィザードの残りの手順を完了します。
6. インストールする配布ごとに、前述のステップを繰り返します。

タスクの結果

これで、サンプル・パッケージを使用してレポートと分析を作成できるようになりました。また、「チーム内容」にあるサンプル・レポートを実行することもできます。

IBM Cognos Dynamic Cubes のサンプルのセットアップ

サンプル・データを使用して、動的キューブをモデル化および設計する方法、およびレポート作成環境でデータを使用する方法を学ぶことができます。

IBM Cognos Dynamic Cubes サンプルは、model.fmd サンプルのデータベース・モデルに基づいています。このモデルは、他の IBM Cognos 製品で使用するサンプ

ル・データが格納されている GOSALESDW データベースを参照します。Microsoft SQL Server では、動的キューブは GOSALESDW データベースを使用します。IBM Db2 および Oracle では、動的キューブはデータベースの単一のスキーマを使用します。

サンプル・モデルは、Samples\models\great_outdoors_dynamiccube にあります。

サンプル動的キューブの配布

IBM Cognos Studio でサンプル動的キューブを処理する場合、IBM Cognos Cube Designer を使用して、サンプルの動的キューブを配布し、データ・ソースとして使用できるようにします。サンプル動的キューブは、gosldw_sales、gosldw_target、および gosldw_sales_and_target です。

始める前に

great_outdoors_warehouse データ・ソース接続は、サンプル動的キューブを配布する前にセットアップしておく必要があります。

匿名アクセスが無効な場合、キューブを発行するためのアカウントに関連した資格情報を使用する必要があります。処理を進める前に、IBM Cognos Portal の「設定」ダイアログの「個人用」タブに移動し、資格情報を作成してください。


このタスクについて

サンプル・レポートを使用するためにパッケージを発行する必要はありません。パッケージはサンプル配布に含まれています。

手順

1. 「スタート」メニューから、「プログラム」 > 「**IBM Cognos Cube Designer**」 > 「**IBM Cognos Cube Designer**」の順にクリックします。

ヒント: IBM Cognos Framework Manager から IBM Cognos Cube Designer を開始することもできます。「ツール」メニューから、「**IBM Cognos Cube Designer** を実行」を選択します。

2. 配布および発行する動的キューブを含むプロジェクトを開きます。
 - a. ツールバーから「開く」  をクリックします。
 - b. サンプル・モデルをダウンロードした場所までナビゲートし、model.fmd を開きます。
3. 「プロジェクト・エクスプローラー」ツリーで、プロジェクトおよびモデルを展開します。

注: IBM Cognos Analytics Server へのログオンを求めるプロンプトが出される場合があります。

4. 「**gosldw_sales**」動的キューブを右クリックし、「発行」を選択します。
5. 動的キューブを配布し、キューブをデータ・ソースとして構成するには、「発行」ウィンドウで「追加オプション」を展開し、「デフォルト・デイスパッチャーに動的キューブを追加」チェック・ボックスをオンにします。

6. 動的キューブを開始するには、「動的キューブを開始」チェック・ボックスをオンにします。
7. 匿名アクセスが無効な場合、「アカウントとサインオンをキューブ・データソースに関連付ける」チェック・ボックスが選択されていることを確認してください。匿名アクセスの場合、チェック・ボックスをオフにします。
8. キューブ `gosldw_target` について、ステップ 4 から 7 を繰り返し、最後に仮想キューブ `gosldw_sales_and_target` についても繰り返します。
9. 「OK」をクリックします。

タスクの結果

配布および発行の処理が成功すると、エラーは報告されません。キューブが正常に開始されたことを確認するメッセージが表示されます。これで、サンプル・パッケージを使用して動的キューブのデータ・ソースに依存するレポートを作成できるようになりました。また、「チーム内容」にあるサンプル・レポートを実行することもできます。

第 5 章 サンプルの使用

このコンテンツでは、IBM Cognos Analytics サンプルの目的、内容、場所について説明します。サンプルの Sample Outdoors 社とその構造、データベース、モデル、およびパッケージについても説明します。

本章で説明するサンプルには、IBM Cognos Analytics のサンプルのディスクからインストールするものと、IBM Cognos Analytics Community (www.ibm.com/communities/analytics/cognos-analytics) からダウンロードして入手するものがあります。

Sample Outdoors 社

Sample Outdoors 社のサンプルは、製品の機能と、技術およびビジネスに関するベスト・プラクティスについて説明するためのものです。

また、これらのサンプルを使用すると、レポートのデザイン方法を試したり共有したりできるほか、トラブルシューティングを行うこともできます。サンプルを使用しながら製品の機能について理解できます。

Sample Outdoors 社、GO 販売、または Sample Outdoors 名のすべてのバリエーションは、架空のビジネス運営に関する名前です。そのサンプル・データは IBM および IBM のお客様向けのサンプル・アプリケーションの開発に使用されます。このサンプル・アプリケーションの架空のレコードには、販売取引、製品配布、財務、および人事に関するサンプル・データが含まれています。実在する名称、住所、連絡先電話番号、取引額とは一切関係がありません。許可なく複製することは禁止されています。

サンプルの概要

サンプルは、次のコンポーネントで構成されています。

- すべての企業データが格納されている 2 つのデータベース、およびクエリーと分析に使用する関連サンプル・モデル
- サンプル・キューブと関連モデル
- レポート、クエリー、クエリー・テンプレート、およびワークスペース

双方向レポートを実行するにはスクリプトが必要です。サンプル・パッケージに含まれているすべてのレポートを見るには、サンプル・コンテンツのインストール環境から配布フォルダーにファイルをコピーし、IBM Cognos Analytics 製品に配布をインポートします。

セキュリティー

サンプルはすべてのユーザーが使用可能です。

Sample Outdoors 社グループ

サンプル、特に財務サンプルを素早く設計する場合は、Sample Outdoors 社に関する一般的な情報が役立ちます。

特定の製品機能を使用するサンプルを見つけるには、このセクションに記載されている個々のサンプルの説明を参照してください。

Sample Outdoors 社の収益は、直営店とフランチャイズ店の運営を通じてもたらされます。収益では、全額出資の関連会社からのものが合算されます。6 つの独立した組織があり、各組織は独自の部門と販売支店を持ちます。これらのうち 5 つの組織は、地域ベースの会社です。

6 つ目の会社の GO Accessories は次のような組織です。

- ブランド、名前、価格、色、サイズによって他の GO 会社と区別される独自の製品群を持つ。
- 1 つの支店からすべての地域および小売業者に販売を行う。
- ジュネーブを拠点とする運営会社としても、ヨーロッパにある 3 つの GO 関連会社の共同所有者としても機能する。

以下の図は、Sample Outdoors 社の連結法人の構造を示しています。図には、GO Central Europe に対する保有割合の変化、および関連会社ごとのレポート作成通貨と GL (総勘定元帳) プレフィックスも含まれています。1 年目に GO Asia Pacific は GO Central Europe の 60% を所有していましたが、3 年目にその所有権は 50% に減少しています。1 年目に GO Accessories は GO Central Europe の 40% を所有しており、3 年目にその所有権は 50% に増加しています。

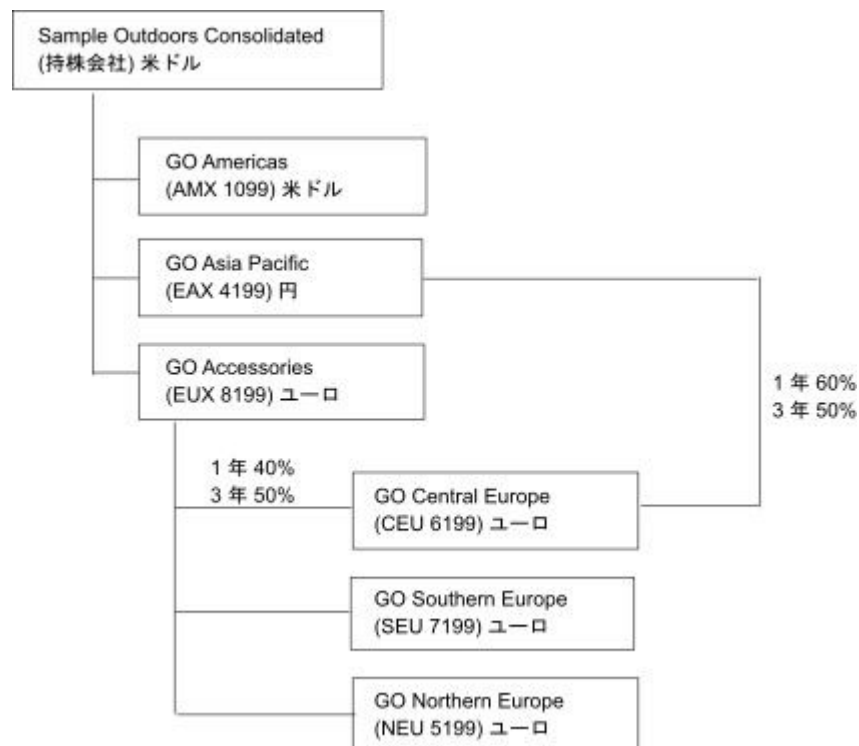


図 1. Sample Outdoors 社の連結法人の構造

以下の表に示されているとおり、Sample Outdoors 社の各企業には同じ部門構造と同じ総勘定元帳 (GL) 構造があります。各部門では、異なる通貨でレポートが作成される場合があります。例えば、アメリカの子会社のレポートは米ドルで作成されますが、本社部門の現地通貨によるレポートはカナダ・ドルで、事業部門の現地通貨はペソです。

表 7. 部署の構造

部門 (GL)	部署 (GL)
本社 (1700)	販売 (1720)
	マーケティング (1750)
	情報サービス/技術 (1760)
	人事 (1730)
	財務 (1740)
	調達 (1710)
事業部門 (1800)	製造販売 (1820)
	顧客サービス (1820)

各企業は、完全な勘定科目一覧表を持ちます。人件費以外の経費の下位の勘定科目など、勘定科目のほとんどは部門レベルにあり、集計額のみが記載されます。例えば、各マーケティング部門で経費が発生していても、マーケティング・プロモーションが行われるトランザクション・レベルの費用は特定されません。

従業員

Sample Outdoors 社のデータには、すべての部門、部署、地域の従業員に関する完全なリストがあります。

賞与に関するレポート (大域賞与レポート) および販売手数料 (中欧の販売手数料レポート)、研修 (年別従業員研修レポート)、および業績評価と従業員満足度調査 (2012 年従業員満足度) に関するデータを使用できます。

"GO データ・ウェアハウス (分析)"パッケージでは、数値データのグループと関連ディメンションがフォルダーごとにまとめられています。従業員は地域および責任者ごとに階層構造でまとめられているため、ユーザーがさまざまな種類の集計に基づいて簡単にレポートを作成できるようになっています。"職位数"と"計画職位数"が各時間レベル (月単位、四半期単位、または年単位) で正しく集計されるように、"従業員職位概要"の数値データに対して集計が定義されています。例については、"計画人員数"レポートを参照してください。

従業員は、サンプル LDIF ファイルにもリスト表示されます。このファイルは、Tivoli® を含むどの LDAP IBM 製品認証にも使用できる可能性があります。この認証ディレクトリーは、IBM Cognos Planning のサンプルを使用する場合に必要です。この他にセキュリティー・プロファイルに依存するサンプルはありません。

販売とマーケティング

Sample Outdoors 社グループのすべての企業について、販売とマーケティングのデータを使用できます。

GO Accessories 社の詳細データでは、分析の例で利用できる、豊富な情報が提供されます。例については、"販売とマーケティング"キューブに基づいた"製品ブランド別の収益と総利益率の対比"分析を参照してください。マーケティングと販売のキャンペーンは、各地域にある Sample Outdoors 社の関連会社に結び付けられています。

全体的に見て、GO 社はすべての地域 (2011 年 GO 関連会社収益) のほとんどの製品ライン (売上成長前年比) で堅実な成長を遂げています。リピーターの増加や、利益率の高いサングラス製品ラインなどの新製品または製品の改良がその要因として挙げられます。5 地域の関連会社 (GO Accessories 社以外の全社) が実施したプロモーションでは、製品ラインの販売において結果が分かれました (キャンペーン、セット売り、四半期のプロモーション効果)。

顧客調査

顧客調査の情報が含まれたデータも利用できます。例えば、虫除けスプレーや日焼け止めなどの製品ラインでは顧客満足度が低く (製品満足度 - アウトドア用保護用品 2011)、小売業者の不満につながる原因として、返品よりも顧客サービスのレベルがより大きく関係している可能性があります (返品および顧客満足度)。

販売店

直営店による収益はトランザクション・レベルで利用できます。フランチャイズ店による収益は統合レベルのみで利用できます ("販売とマーケティング"キューブ)。小売業者に関する評価指標では、このデータで示された期間中に新しい小売店の数が減少したことを確認できます。

GO Accessories 社は、全世界を対象に小物のみを販売しています。GO Accessories のトランザクション・データは、ブランド別、色別、サイズ別の製品分析の主要なソースです。企業グループに属するその他の関連会社 5 社は、それぞれが担当する地域の小売業者を対象にすべての製品ラインを販売しています。例えば、"2011 年小売業者上位 10 社"レポートでは、スパークラインを使用して、小売業者のレベルで収益を確認するためのデータをリスト表示します。

Sample Outdoors データベース、モデル、パッケージ

Sample Outdoors Framework Manager モデルは、モデル作成手法を例示するもので、サンプルの実行をサポートします。

これらのモデルは GO データ・ウェアハウスおよび GO 販売のトランザクション・データベースに基づいており、サンプルのレポートとクエリーの基礎となります。それぞれのモデルには、データの次元的分析ビューとクエリー・ビューを発行するための 2 つのパッケージがあります。

サンプル・モデルを表示するには、IBM Cognos Analytics のモデル作成ツールである Framework Manager へのアクセス権が必要です。また、サンプル・データベースとその接続の設定が必要な場合もあります。

GO データ・ウェアハウス

"GO データ・ウェアハウス"モデル (great_outdoors_data_warehouse.cpf) は、GOSALESDW データベースに基づいています。このモデルには、人事、販売とマーケティング、財務についてのデータが、業務分野ごとにグループ化されて格納されています。データベース・ビューでは、これらの 3 つの業務分野が別々のネームスペースにグループ化されています。データベース・ビューには 4 つ目のネームスペースとして"GO データ"が用意されており、ここに共通の情報が格納されます。

データベース・ビューは、基盤となるデータベースの構造とほぼ同じです。テーブル (データベース・クエリー・サブジェクト) は一切変更されていません。これにより、ほとんどの場合は、データベースへのメタデータ・コールを使用せずに、IBM Cognos Analytics でメタデータをパッケージから直接取得できます。データベース・ビューでは、次の変更と追加が行われています。

- 必要に応じて結合が追加されている。
- 異なる細分性のレベルで集計を行えるようにするため、モデル・クエリー・サブジェクトがいくつか作成されている。例えば、"時間"と"販売"または"時間"と"販売の実情"の間の関係を参照してください。
- 検索テーブルとディメンション内の各レベルの間に単一の結合を作成できるようにするため、検索テーブルがコピーされている。例えば、"製品"検索テーブルを参照してください。

ビジネス・ビューには、モデル・クエリー・サブジェクトのみが格納され、結合はありません。ビジネス・ビューでは、次の変更と追加が行われています。

- モデル・クエリー・サブジェクトに計算が追加された。例えば、時間ディメンションには言語の計算があります。
- データベースに複数の階層がある場合に、各階層をまとめるために新しいディメンションが作成されている。例えば、従業員階層は、管理者や地域などのいくつかのカテゴリーに編成されます。

GO 販売トランザクション・データベース

"GO 販売"モデル (great_outdoors_sales.cpf) は、トランザクション・データベースとして構造化された、GOSALES データベースに基づいています。このデータベースには、主に販売データが格納されています。

データベース・ビューは、基盤となるデータベースの構造とほぼ同じです。データベース・ビューでは、次の変更と追加が行われています。

- ファクト表を時間ディメンションに結合できるように、モデル・クエリー・サブジェクトと、複数の部分で構成される結合が使用されている。
- 必要に応じて他の結合が追加されている。

ビジネス・ビューには、モデル・クエリー・サブジェクトのみが格納され、結合はありません。ビジネス・ビューでは、次の変更と追加が行われています。

- モデル・クエリー・サブジェクトに計算が追加された。
- 時間ディメンションでの結合を可能にするためにデータベース・ビューで作成されたモデル・クエリー・サブジェクトが、参照ショートカットとしてリンクされている。
- データベースに複数の階層がある場合に、各階層をまとめるために新しいディメンションが作成されている。
- "販売員"は、徐々に変化する従業員ディメンションのサブセットである。"GO 販売"に一意の従業員キーがないため、フィルターで取得されるのは現在のレコードのみです。このモデルでは、履歴データは使用されません。

サンプル PowerCube

次のキューブは、Sample Outdoors 社のサンプルとともに英語、フランス語、ドイツ語、日本語、中国語で配布されます。

- sales_and_marketing.mdc
- employee_expenses.mdc
- go_accessories.mdc
- go_america.mdc
- go_asia_pacific.mdc
- great_outdoors_sales_ja.mdc
- great_outdoors_7.mdc

サンプル・パッケージ

Sample Outdoors のサンプルには、6 個のパッケージが含まれています。使用可能な各パッケージについて簡単に説明します。

"GO データ・ウェアハウス (分析)"は、ディメンションを使用してモデル化した、GOSALESDW データベースのビューです。このパッケージは、IBM Cognos Analysis Studio を含むすべての Studio/Authoring ツールで使用できます。このパッケージを使用して、ドリルアップとドリルダウンを行うことができます。

"GO 販売 (分析)"は、ディメンションを使用してモデル化した、GOSALES データベースのビューです。このパッケージは、Analysis Studio を含むすべての Studio/Authoring ツールで使用できます。このパッケージを使用して、ドリルアップとドリルダウンを行うことができます。

"GO データ・ウェアハウス (クエリー)"は、ディメンションを持たない、GOSALESDW データベースのビューです。このパッケージは、Analysis Studio を除くすべての Studio/Authoring ツールで使用でき、ドリルアップやドリルダウンの必要がない場合のレポート作成で有用です。

"GO 販売 (クエリー)"は、ディメンションを持たない、GOSALES データベースのビューです。このパッケージは、Analysis Studio を除くすべての Studio/Authoring ツールで使用でき、ドリルアップやドリルダウンの必要がない場合のレポート作成で有用です。

"販売とマーケティング (キューブ)"は、"sales_and_marketing.mdc" キューブに基づく OLAP パッケージです。

"Great Outdoors 売上 (キューブ)"は、"great_outdoors_sales_en.mdc" キューブに基づく OLAP パッケージです。

注: OLAP パッケージである"Great Outdoors 売上 (キューブ)"と "販売とマーケティング (キューブ)"では、多言語を使用できません。IBM_Cognos_PowerCube.zip アーカイブには、各パッケージの 5 つの言語バージョン (英語版、フランス語版、ドイツ語版、日本語版、および中国語版) が格納されています。

サンプル監査モデルおよびサンプル監査レポート

IBM Cognos Analytics 監査サンプルには、サンプル・モデルとサンプル監査レポートが用意されています。

サンプル監査モデル

Framework Manager サンプル監査モデル Audit.cpf のデフォルトの場所は、`installation_location/cognos/samples/webcontent/samples/models` です。

サンプル監査レポート

監査サンプル配布 IBM_Cognos_Audit.zip のデフォルトの場所は、`installation_location/cognos/samples/webcontent/samples/content` です。

サンプル監査レポートは、使用する前に設定を行う必要があります。

次の表はサンプル監査レポートのリストで、各レポートの内容が示されています。

表 8. サンプル監査レポート

監査レポート名	説明
ユーザー別週次操作詳細	このアクティブ・レポートは、選択された値についての、ログ記録されたユーザー操作の週次詳細をプロンプトで表示します。デフォルト値が DATASET の場合、これは「ユーザー・データ・セット」機能を使用してログ記録されます。
ユーザー別エージェント実行履歴	実行されたエージェントを、ユーザー、日付、および時間別にリストします。棒グラフも表示されます。 日時の範囲を選択できます。
1 日あたりの評価指標の例外	すべてのサービスに対する日付別の評価指標の例外をリスト表示します。
パッケージおよびレポート別実行レポート	実行されたレポートをパッケージ別に表示します。このレポートには、各レポートのユーザー、タイム・スタンプ、ミリ秒単位の実行時間も含まれます。 日時の範囲、1 人以上のユーザー、1 つ以上のパッケージ、1 つ以上のレポートを選択できます。
テナント別の実行レポート	テナント ID およびテナント・ユーザーをリスト表示します。このレポートは、パッケージ、レポート、およびタイム・スタンプ情報を提供します。
ユーザー別のレポート、ダッシュボード、およびストーリーの実行	このレポートには、ユーザーとタイム・スタンプのプロンプト、およびレポート・タイプとパッケージのローカル・フィルターが含まれます。
ユーザー別実行履歴	ログ記録データベースが作成されてから実行されたレポートをパッケージとタイム・スタンプとともにユーザー別に五十音順で表示します。 このレポートには、ユーザー別の実行レポートの合計数と、ユーザー別の各レポートの実行時間合計が表示されます。また、すべてのユーザーによって実行されたレポートの合計数も表示されます。 レポートについて 1 人以上のユーザーを選択できます。監査レポートを実行したら、特定のレポートまたはすべてのレポートに関する統計を表示できます。
実行に失敗したレポート (パッケージ別)	失敗したレポート実行をパッケージ別にリスト表示します。また、円グラフも表示され、各パッケージの失敗の割合が示されます。
タイム・スタンプによるログオン処理状況	ログオンおよびログオフのタイム・スタンプと処理をユーザー別に表示します。 このレポートには、合計ログオン回数と、ユーザー別の合計ログオン回数も表示されます。 レポートについて期間と 1 人以上のユーザーを選択できます。

表 8. サンプル監査レポート (続き)

監査レポート名	説明
テナントによるログオン操作	各テナント ID のログオン操作をリスト表示し、ユーザーおよびテナント ID それぞれの合計ログオン回数を示します。
ユーザー名によるログオン処理状況	<p>ログオフ処理のタイプとともに、ログオンおよびログオフのタイム・スタンプをユーザー別に表示します。</p> <p>このレポートには、合計ログオン回数と、ユーザー別の合計ログオン回数が表示されます。</p> <p>レポートについて 1 人以上のユーザーを選択できます。</p>
移行の例外	移行タスクの例外を示すリスト・レポート。
選択したオブジェクトとユーザー単位での処理状況	<p>ターゲット・オブジェクトに対して実行された処理をユーザー別に表示します。このレポートには、処理のターゲット・オブジェクト・パス、タイム・スタンプ、ステータスが表示されます。</p> <p>レポートについて 1 つ以上のオブジェクト、処理、またはユーザーを選択できます。</p>
レポート実行履歴 (詳細レポート)	<p>関連するパッケージと、レポートが実行された時点の各タイム・スタンプとともにレポートを五十音順に表示します。</p> <p>このレポートには、各レポートの合計実行回数と、実行レポートの合計数も表示されます。</p> <p>また、レポートの使用頻度の概要を示す、色分けされた円グラフも表示されます。</p>
レポート実行およびユーザー・ログオン履歴	このアクティブ・レポートは、指定された期間におけるレポートの実行履歴とユーザーのログオン情報を表示します。
レポート実行履歴 (概要レポート)	ログ記録データベースの作成以後、レポートが実行された時点の各タイム・スタンプとともにレポートを五十音順に表示します。
レポート実行履歴 (テナント別)	テナントの実行済みレポート、タイム・スタンプ、および関連パッケージ名をリスト表示します。このレポートは総アクティビティの概要を提供します。このレポートは、特定のテナントに関してフィルターに掛けることができます。
レポートの使用状況	<p>使用頻度別にレポートを表示します。各レポートについて、ログ記録データベースが作成されてからレポートが実行された回数とユーザーが表示されます。</p> <p>このレポートは、未使用のレポートがあるかどうかを確認するときに役に立ちます。未使用のレポートがある場合、これを削除できます。</p>

表 8. サンプル監査レポート (続き)

監査レポート名	説明
サービス要求の評価指標 - 日間レポート	今日の IBM Cognos サービスの要求のうち、成功したものと失敗したものの割合を表示します。棒グラフも表示されます。
ユーザー・セッション - 異常終了	異常終了したユーザー・セッションのログオンの日時を表示します。日付別のセッション終了数の合計も表示されます。 日時の範囲を選択できます。
ユーザー・セッション - 詳細	ログオン時刻、ログオフ時刻、ログオフ処理、セッションの長さなどのユーザー・セッションの詳細を表示します。 このレポートには、ユーザー別のセッション時間の合計と、すべてのユーザーのセッション時間の合計も表示されます。 日時の範囲と 1 人以上のユーザーを選択できます。
ユーザー・セッション - 過去 30 日間におけるログオン・エラーのグラフ	この監査レポートには、過去 30 日間におけるログオン・エラーの棒グラフが表示されます。
ユーザー・セッション - 概要	この監査レポートには、ユーザー別のセッションの平均時間が表示されます。また、ユーザー別のセッションの平均時間合計も表示されます。 日時の範囲と 1 人以上のユーザーを選択できます。
過去 30 日間のパッケージ別のレポート、ダッシュボード、およびストーリーの実行	このアクティブ・レポートは、過去 30 日間におけるパッケージ別のレポート、ダッシュボード、およびストーリーの実行を表示します。このレポートは、パッケージ、レポート、ダッシュボード、またはストーリーの選択のためのプロンプトをユーザーに表示し、選択されたプロンプト値ごとに過去 30 日間の実行履歴を表示します。
パッケージおよびレポート別レポート表示回数	このレポートは、選択したテナントのユーザー、レポート、タイム・スタンプ、およびパッケージをリストします。
モバイル・クライアント・タイプ別のレポートの実行	このレポートには、さまざまなモバイル・クライアント・タイプによって実行されたレポートがリストされます。サンプル・レポートには、リストされた各レポートごとに、そのレポートの実行に使用されたモバイル・ユーザー・エージェントと、各クライアントによってレポートが実行された回数の合計が表示されます。レポートを実行するときに、日時の範囲を選択することができます。
モバイル・ユーザー別のレポートの実行	このレポートには、特定のモバイル・ユーザーによって実行されたレポートがリストされます。レポートは、各ユーザーごとに、モバイル・ユーザー・エージェント、実行されたレポートのタイプ、およびレポートが実行された時刻を指定します。レポートを実行するときに、ユーザー、日付、および時刻の範囲を選択できます。

表 8. サンプル監査レポート (続き)

監査レポート名	説明
スケジュールされたモバイル・レポート配信	このレポートには、スケジュールされているレポートの名前、そのレポートのモバイル受信者、およびスケジュールされた時間中のレポートの実行回数が表示されます。レポートを実行するときに、日時の範囲を選択することができます。
モバイル・ユーザー別のログオン操作	このアクティブ・レポートは、各モバイル・ユーザーのログオン操作とログオフ操作、および過去 7 日間のすべてのユーザーのログオン操作の合計数を表示します。日付をドリルダウンして、特定の時間のログオン操作およびログオフ操作の数を参照できます。

サンプル監査レポートのセットアップ

サンプル監査レポートをセットアップするには、「監査」データベースへのデータ・サーバー接続を作成し、サンプル配布をインポートする必要があります。

手順

1. Db2[®]、Oracle、または Microsoft SQL Server など、サポートされているデータベース・システムで「監査」というログ記録データベースを作成します。

詳細については、「*IBM Cognos Analytics* インストールおよび設定ガイド」のログ記録データベースの作成についてのガイドラインを参照してください。

2. IBM Cognos Configuration で、「監査」データベースを構成します。
 - a. 「環境」で、「ログ記録」を右クリックします。
 - b. 「新規リソース」 > 「ターゲット」を選択します。「監査」という名前を入力し、タイプとして「データベース」を選択します。「OK」をクリックします。
 - c. 「監査」を右クリックし、「新規リソース」 > 「データベース」を選択します。再び「監査」という名前を入力し、ステップ 1 でログ記録データベースを作成するときに使用したデータベース・タイプを選択します。
 - d. ユーザー ID およびパスワードなど、「監査」データベースに必要なプロパティを指定し、データベースをテストします。
 - e. 設定を保存し、「IBM Cognos」サービスを再始動します。
3. 「監査」データベースへのデータ・ソース接続を作成します。
 - a. 「管理」 > 「管理コンソール」に移動します。
 - b. 「設定」タブで、「データ・ソース接続」を選択します。
 - c. ウィザードに従って、新規のデータ・ソース接続を作成します。データベースとデータ・ソースの名前は、「監査」でなければなりません。
4. サンプル配布ファイル `IBM_Cognos_Audit.zip` を、インストールされた場所から `ca_install_location/deployment` ディレクトリにコピーします。

ヒント: デフォルトでは、`IBM_Cognos_Audit.zip` ファイルは `installation_location/cognos/samples/webcontent/samples/content` ディレクトリにインストールされます。

5. 監査配布 IBM_Cognos_Audit.zip ファイルをインポートします。
 - a. 「管理」 > 「管理コンソール」に移動します。
 - b. 「設定」タブで、「コンテンツ管理」を選択します。
 - c. インポート・ウィザードに従って、IBM_Cognos_Audit.zip をインポートします。いずれかのステップで「**Samples_Audit**」フォルダーが選択されていることを確認します。

インポートが完了すると、「チーム内容」 > 「**Samples_Audit**」 > 「監査」フォルダー内にサンプル監査レポートが用意されています。
6. 監査レポートをテストします。
 - a. 監査レポートが有効になっているかどうか確認します。監査レポートを有効にするには、選択した IBM Cognos サービスのログ記録レベルを「標準」(監査が有効) または「要求」に設定する必要があります。ログ記録レベルを「最小」に設定すると、監査は無効になります。詳細については、「*IBM Cognos Analytics*管理およびセキュリティー・ガイド」の監査レポートのセットアップに関するトピックを参照してください。
 - b. 組織のレポートまたはダッシュボードのいくつかを「チームの内容」から実行します。このステップは、サンプル監査レポートを初めて実行するときにレポートで使用できるいくつかのデータを収集するために必要です。
 - c. 「チームの内容」 > 「**Samples_Audit**」 > 「監査」からサンプル監査レポートを実行し、その内容を表示します。

動的クエリー・モードのサンプル・レポート

動的クエリー・モード用に最適化されたサンプル・モデルおよびサンプル・レポートが、IBM Cognos Analytics に組み込まれています。

インストールして配布すると、「**Samples_DQ**」というフォルダーの中にサンプルが見つかります。更新されたレポートも名前変更され、接尾部 **_DQ** が付けられています。

サンプルは、動的クエリー・モードの主な機能向上の利点を活用するように小さな変更が加えられています。例えば、レポートは、特定のソート順を適用して、集計モードを指定するように更新されました。

動的クエリー・モードのサンプルにアクセスするには、2 つのデータ・ソースへのデータ・ソース接続を変更して JDBC 接続を有効にしてから、更新されたサンプル配布アーカイブをインポートする必要があります。

サンプル・データ・ソースへのデータ・ソース接続を変更する

動的クエリー・サンプル・レポートをインポートしてから使用するには、2 つのサンプル・リレーショナル・データベースへの既存のデータ・ソース接続を変更して、JDBC 接続を有効にする必要があります。

手順

1. IBM Cognos Administration で、「設定」タブをクリックして、「データ・ソース接続」をクリックします。

注: IBM Cognos Administration でこの領域にアクセスするには、保護されている機能である「管理タスク」に対する権限が必要です。

2. 「**great_outdoors_sales**」サンプル・データ・ソースをクリックします。
3. 「アクション」列で、「**great_outdoors_sales**」データ・ソース接続の「プロパティを設定」アイコンをクリックします。
4. 「接続」タブの「接続文字列」で、「接続文字列を編集」アイコンをクリックします。
5. 「JDBC」タブで「JDBC 接続を有効化」チェック・ボックスをオンにします。
6. データ・ソースの JDBC 接続パラメーターを指定します。
7. 「接続をテスト」をクリックし、「テスト」をクリックします。

接続テストの結果ページで、「タイプ」、「クエリー・モード」列の JDBC の結果を確認します。

8. 「**great_outdoors_warehouse**」サンプル・データ・ソース接続について、前のステップを繰り返します。

Content Store への動的クエリー・サンプル・コンテンツ (パッケージ) のインポート

サンプル・データ・ソースへのデータ・ソース接続を変更したら、動的クエリー・サンプル・コンテンツ (パッケージ) をサンプル配布アーカイブからインポートする必要があります。

このタスクについて

動的クエリー・サンプルは、IBM_Cognos_Samples_DQ_Legacy.zip という配布アーカイブにあります。

配布アーカイブのインポートの詳細については、17 ページの『拡張サンプルのインポート』を参照してください。

IBM Cognos Analytics - Reporting サンプル

IBM Cognos Analytics - Reporting のサンプル・レポートは、Sample Outdoors Company という名前の架空の小売業者、またはアップロードされたファイルに基づいています。

Sample Outdoors 販売 (キューブ) パッケージのサンプル

Sample Outdoors 販売 (キューブ) パッケージには次のレポートが含まれています。

連続した期間の比較

このレポートには、ユーザーが選択した連続する 2 つの期間の、キャンプ用品と個人装備による収益、総利益、およびキャンプ用品の数量が表示されています。

"販売とマーケティング (キューブ)"パッケージのサンプル

"販売とマーケティング (キューブ)"パッケージには、次のようなレポートが含まれています。

予定収益と実績の対比

このレポートには、注文方法および年別の予定収益と実績収益が表示されます。このレポートは、同じパッケージ内の他のレポートからの、数値データに基づくスコープ・ドリルスルーのターゲットにもなります。

このレポートでは次の機能が使用されています。

- リスト
- フィルター
- 複数のプロンプト
- グループ化
- ソート
- 集計

収益の履歴

プロンプトを使用したこのレポートには、月別および年度累計収益の 13 カ月ローリング予測が表示されます。

このレポートでは次の機能が使用されています。

- フィルター
- カスケード・プロンプト
- 組み合わせグラフ
- 軸タイトル

日付範囲の収益

このレポートには、プロンプト・ページで指定した日付範囲の収益が表示されます。

このレポートでは次の機能が使用されています。

- リスト
- クロス集計
- コンテキスト・フィルター
- カスタム・ヘッダーとカスタム・フッター
- 複数のプロンプト
- 計算

製品ブランド別の収益 (2011 年)

このレポートには、製品ブランドでフィルターにかけられた、製品別の収益と総利益が表示されます。製品は常に回転していくため、レポートでは製造中止になった製品が条件付きで強調表示になっています。

このレポートでは次の機能が使用されています。

- リスト
- フィルター
- プロンプト
- 組み合わせグラフ
- 横棒グラフ
- HTML アイテム
- グループ化
- ソート
- 軸タイトル

前年同月比

このレポートには、1 カ月あるいは複数月にわたる製品ライン別の販売量が表示されます。このレポートは、月を指定するプロンプトでフィルターにかけられます。選択した月と前年同月について、合計が算出されます。

このレポートでは次の機能が使用されています。

- クロス集計
- プロンプト
- カスタム・ヘッダーとカスタム・フッター

選択した小売業者の国または地域

このレポートでは、選択した国または地域の収益が、他の一連の国または地域の収益と比較するための基準値として使用されます。基準の国と地域に対する収益の差が、それぞれの国と地域についてグラフに表示されます。このレポートは、国と地域を指定するプロンプトでフィルターにかけられます。

このレポートでは次の機能が使用されています。

- クロス集計
- 横棒グラフ
- 表によるオブジェクトの表示位置の指定

国または地域別の上位小売業者

このレポートには、国または地域別の小売業者の上位 10 社が表示されます。"国または地域別の総収入"レポートへのドリルスルーのソースとして使用されます。

このレポートでは次の機能が使用されています。

- クロス集計
- プロンプト
- フィルター
- 折れ線グラフ
- プロンプト・ページ
- クエリー計算
- 計算
- シングルトン

- 横棒グラフ
- カスタム・ヘッダーとカスタム・フッター

"GO データ・ウェアハウス (分析)"パッケージのサンプル

"GO データ・ウェアハウス (分析)"パッケージには、次のようなレポートが含まれています。

Reporting で作成されたサンプル・レポートは、「アクティブ・レポート」フォルダーおよび「Reporting レポート・サンプル」フォルダーに置かれます。

予算と実績

このレポートには、キャンプ用品の製品ラインに関する 3 年間のデータが小売業者と店舗別に表示されます。各年には予算と実績のデータが含まれます。

このレポートでは次の機能が使用されています。

- 集計
- クロス集計
- コンテキスト・フィルター

主力製品の結果

このアクティブ・レポートは、主力製品の「キャンプ用品」と「ゴルフ用品」の収益データを表示します。

このリスト・レポートでは、以下の基準でデータをフィルタリングするために 2 つのドロップダウン・リスト・コントロールを使用します。

- 主力製品
- 国または地域

返品および顧客満足度

このレポートには、2013 年のアジア太平洋地域における顧客満足度の調査結果が表示されます。最も満足度が低い顧客は強調表示されます。また、製品の返品数が最も多い顧客の情報も提供されます。

このレポートでは次の機能が使用されています。

- 組み合わせグラフ
- グラフの色とサイズのカスタマイズ
- リスト
- リストの表示形式の設定
- 条件付き強調表示
- フィルター
- カスタム・ヘッダーとカスタム・フッター
- 色
- 系統
- テキスト・アイテム
- グループ化

- 基準線
- 集計
- 計算
- ドリルスルー

2012 年従業員満足度

このレポートには、従業員調査の部門ごとの結果が、目標および業界標準との比較により表示されます。従業員格付けと解雇のデータも表示されます。

このレポートでは次の機能が使用されています。

- クロス集計
- 条件付き強調表示
- 組み合わせグラフ
- 系統
- テキスト・アイテム
- 計算

年別従業員研修

このレポートには、選択した年および四半期における従業員研修のデータが表示されます。棒グラフに地域別の研修費用、クロス集計に選択した四半期のデータが表示されます。

このレポートでは次の機能が使用されています。

- コンテキスト・フィルター
- カスケード・プロンプト
- 横棒グラフ
- グラフの色のカスタマイズ
- クロス集計
- 計算

ブランドとサイズ別の眼鏡の収益

このレポートでは、眼鏡の収益に関する集計がブランド別に表示され、プロンプトで指定された 2 つの店舗が比較されます。プロンプトで指定された地域、小売業者のタイプ、および年によってフィルターがかけられます。

このレポートでは次の機能が使用されています。

- プロンプト
- 横棒グラフ
- リスト
- 条件付きスタイル
- 計算
- テキスト・アイテム
- カスタム・ヘッダーとカスタム・フッター
- 組み合わせグラフ

- 軸タイトル
- クロス集計
- グループ化

大域賞与レポート

このリスト・レポートには、年間に 2,500 米ドルを超える特別賞与を受け取った従業員が地域別に表示されます。データは国または地域別にグループ化されています。各地域で販売目標をどの程度上回ったかも表示されます。

このレポートでは次の機能が使用されています。

- リスト
- ページ・セット (異なるソートとグループ化を使用した、国または地域別の改ページ)
- 複数のプロンプトとパラメーター
- 計算
- フィルター
- 条件付き強調表示
- 非表示のオブジェクト
- 系統

Great Outdoors 社貸借対照表 - 2012 年 12 月 31 日現在

これはアメリカ地域の貸借対照表レポートで、現在の年のデータが前年のデータと比較されます。アナリストが下降傾向を見つけやすいように、[差異] では負の割合が強調表示されています。

このレポートでは次の機能が使用されています。

- 条件付き強調表示
- 間隔
- クロス集計
- テキスト・アイテム
- コンテキスト・フィルター

Sample Outdoors 社貸借対照表 - 2012 年 12 月 31 日現在

このレポートには、資産、負債、資本から成る 2012 年の簡易貸借対照表が、2011 年との比較で表示されます。IBM Cognos Analytics の「ご利用の手引き」には、このレポートの作成方法を順番に説明した例が記載されています。

このレポートでは次の機能が使用されています。

- クロス集計

責任者略歴

このレポートには、給与、賞与、その他の報酬を含む責任者の情報が、年毎に表示されます。

このレポートでは次の機能が使用されています。

- 縦棒グラフ

- リスト
- グループ化
- 集計
- カスタム・グラフ・パレット
- プロンプト

計画人員数

このグラフ・レポートには、2013 年の人員の計画に対する差異が組織ごとに表示されます。

このレポートでは次の機能が使用されています。

- 累加縦棒グラフ
- テンプレート
- 非表示のオブジェクト
- カスタム・ヘッダーとカスタム・フッター
- リスト
- 基準線

募集職位

このレポートには、部門名、職位、職位の補充にかかる最長日数、および格付けのリストが表示されます。年を指定するプロンプトが使用され、またこのレポートは "採用" レポートのドリルスルー・ターゲットとなります。

このレポートでは次の機能が使用されています。

- 組み合わせグラフ
- リスト
- プロンプト
- 基準線

プロモーションの予定収益

このレポートには、選択したキャンペーンの全プロモーションについて、予定収益が表示されます。「販売とマーケティング (キューブ)」パッケージに基づくレポート「小売業者別プロモーション上位 10 件」のドリルスルー・ターゲットとなります。

このレポートでは次の機能が使用されています。

- プロンプト
- 横棒グラフ
- クロス集計
- 軸タイトル

プロモーション効果

このレポートには、プロモーションの財務的な結果が表示されます。各プロモーション・キャンペーンが会社の総収入に貢献した程度が表示されます。

このレポートでは次の機能が使用されています。

- プロンプト・ページ
- HTML アイテム
- 集計
- 軸タイトル
- 横棒グラフ
- リスト
- グループ化

販売数量に対する発送数量と在庫

このレポートでは、販売および発送された製品の数量が、開始時および終了時の在庫レベルと比較されます。

このレポートでは次の機能が使用されています。

- フィルター
- 組み合わせグラフ
- 定義済みの Y 軸
- カスタム・ヘッダーとカスタム・フッター

採用レポート

このレポートには、特定の職位あるいは組織のさまざまな採用方法が表示されます。

このレポートでは次の機能が使用されています。

- ドリルスルー
- クロス集計
- プロンプト・ページ
- 色
- フロート・オブジェクトの調整
- カスタム・ヘッダーとカスタム・フッター

発注方法別の返品数量

このレポートには、"アウトドア用保護用品"製品ラインの各製品に対し、返品理由ごとに販売数量、返品数、返品率が表示されます。返品率が 5% を超えるものは強調表示されます。

このレポートでは次の機能が使用されています。

- フィルター
- リスト
- 条件付き強調表示
- グループ化

返品された製品

このレポートには、返品された製品の数が返品理由および小売業者タイプごとに表示されます。縦棒グラフには、選択した日付範囲に返品された製品が製品ラインおよび地域ごとに表示されます。

このレポートでは次の機能が使用されています。

- 日時のプロンプト
- クロス集計
- 横棒グラフ
- ドリルダウン
- テキスト・アイテム
- ソート

2012 年の破損品、注文ミス、不満による返品

このレポートには、製品の返品に基づく品質尺度が表示されます。

このレポートでは次の機能が使用されています。

- 円グラフ
- クロス集計
- テキストのインデント
- シングルトン
- 計算
- ドリルスルー
- テキスト・アイテム
- カスタム・ヘッダーとカスタム・フッター

2012 年の注文ミスによる返品

このレポートには返品に基づいた品質尺度が表示され、注文ミスに焦点が当てられています。

このレポートでは次の機能が使用されています。

- 円グラフ
- クロス集計
- テキストのインデント
- シングルトン
- ドリルスルー
- tuple 関数を含む計算

発注方法別返品

このレポートには、製品の返品と理由が発注方法でフィルターされて表示されます。「ご利用の手引き」で、事例を使用したこのレポートの作成方法が手順を追って説明されています。

このレポートでは次の機能が使用されています。

- 横棒グラフ
- プロンプト
- クロス集計
- フィルター
- カスタム・ヘッダーとカスタム・フッター

発注方法別返品 - プロンプト付きグラフ

このプロンプト付きのグラフ・レポートには、製品の返品および返品理由が、プロンプトで指定された発注方法でフィルターに掛けられて表示されます。

このレポートでは次の機能が使用されています。

- 横棒グラフ
- プロンプト
- クロス集計
- フィルター
- カスタム・ヘッダーとカスタム・フッター

2011 年 GO 関連会社収益

プロンプトを使用したこのグラフ・レポートには、GO 関連各社の 2011 年の四半期ごとの収益が表示されます。

このレポートでは次の機能が使用されています。

- テンプレート
- 色
- プロンプト
- ハイパーリンク
- グラフのカスタマイズ
- シングルトン
- 横棒グラフ
- ドリルスルー
- レイアウト計算
- 円グラフ
- 計算
- 組み合わせグラフ
- テキスト・アイテム
- ブロック
- ソート

中欧の販売手数料

このレポートには、中欧の各支店における販売手数料、収益、総利益の年間集計が表示されます。また、予定されていた販売手数料と実際の販売手数料が比較されます。

このレポートでは次の機能が使用されています。

- プロンプト
- 計算
- 横棒グラフ
- リスト
- 条件付き強調表示
- ドリルスルー
- カスタム・ヘッダーとカスタム・フッター
- 軸タイトル

売上成長前年比

このレポートでは、年間売上成長が割合と金額の両方で表示されます。

このレポートでは次の機能が使用されています。

- 横棒グラフ
- リスト
- フィルター
- ソート
- 基準線
- 軸タイトル

地域ごとの販売目標

このアクティブ・レポートは、計画収益と実収入との差の割合を含む、地域ごとの販売目標を示します。

継承レポート

このレポートには、部門ごとの継承データと達成率のステータスが縦棒グラフで表示されます。また、後任の候補者に関連付けられた責任者についての詳細なクロス集計も表示されます。

このレポートでは次の機能が使用されています。

- "責任者略歴"レポートへのドリルスルー
- フィルター
- リスト
- グループ化

2011 年小売業者上位 10 社

このレポートには、2011 年において収益と販売目標が上位 10 位であった小売業者が表示されます。

このレポートでは次の機能が使用されています。

- 横棒グラフ
- リスト
- フィルター
- 複数のクエリー

- 組み合わせグラフ
- 折れ線グラフ
- メモ
- 軸タイトル
- テキスト・アイテム
- カスタム・ヘッダーとカスタム・フッター

"GO データ・ウェアハウス (クエリー)"パッケージのサンプル

"GO データ・ウェアハウス (クエリー)"パッケージには、次のようなレポートが含まれています。

Reporting で作成されたサンプル・レポートは、「アクティブ・レポート」フォルダーおよび「Reporting レポート・サンプル」フォルダーに置かれます。

宣伝費と収益との比較

このアクティブ・レポートは、年ごとの、宣伝費と収益の比較を示します。タブ・コントロールは、類似したレポート・アイテムのグループ化に使用されます。

販売実績バースト・レポート

このリスト・レポートは、北欧の販売員について、製品販売レポートをどのようにして販売責任者にバーストするかを示します。レポートのバーストを実行するには、IBM Cognos Analytics が E メール・サーバーを使用するように設定されていることが必要です。

このレポートでは次の機能が使用されています。

- リスト
- バースト
- 条件付き強調表示
- フィルター
- 計算
- 集計
- ブロック
- カスタム・ヘッダーとカスタム・フッター
- ソート
- グループ化

収益 (製品別)

このアクティブ・レポートは、選択された製品別の収益を示しています。サンプル・レポートは、携帯電話デバイスで使用するために開発されました。

従業員費用 (レポート)

このレポートは"従業員費用"PowerCube のデータ・ソースとして使用されます。

このレポートでは次の機能が使用されています。

- リスト

健康保険

このレポートは"従業員費用"PowerCube のデータ・ソースとして使用されます。

このレポートでは次の機能が使用されています。

- リスト
- フィルター

年金

このレポートは"従業員費用"PowerCube のデータ・ソースとして使用されます。

このレポートでは次の機能が使用されています。

- リスト
- フィルター

基本給与

このレポートは"従業員費用"PowerCube のデータ・ソースとして使用されます。

このレポートでは次の機能が使用されています。

- リスト
- フィルター

目次レポート

このレポートでは、ブックマーク・オブジェクトを利用して、レポートを容易にナビゲートすることができます。このレポートは PDF 形式で実行するか、HTML 形式で保存します。レポートには、製品注文のテーブルと、予想販売量のファクト表が表示されます。

このレポートでは次の機能が使用されています。

- リスト
- ブックマーク
- 背景色
- 複数のページ
- グループ化

国または地域別の総収入

このレポートでは、小売業者の国または地域および製品ラインごとの収益が集計されます。"国または地域別の上位小売業者"および"発注方法別の収益"レポートのドリルスルー・ターゲットにもなります。

このレポートでは次の機能が使用されています。

- クロス集計
- 組み合わせグラフ
- 集計
- 表によるオブジェクトの表示位置の指定

"GO 販売 (分析)"パッケージのサンプル

"GO 販売 (分析)"パッケージには、次のようなレポートが含まれています。

2011 年四半期販売予測

このレポートでは、2011 年の各四半期に対する販売予測が、製品ライン別と地域別に表示されます。

このレポートでは次の機能が使用されています。

- リスト
- 集計
- グループ化
- ソート

2011 年販売の概要

このレポートでは、2011 年の収益と総利益が集計され、収益と販売数量において最も優秀な販売員が表示されます。

このレポートでは次の機能が使用されています。

- リスト
- フィルター
- 組み合わせグラフ
- 軸タイトル
- カスタム・ヘッダーとカスタム・フッター
- 条件

"GO 販売 (クエリー)"パッケージのサンプル

"GO 販売 (クエリー)"パッケージには、次のようなレポートが含まれています。

Reporting で作成されたサンプル・レポートは、「アクティブ・レポート」フォルダーおよび「Reporting レポート・サンプル」フォルダーに置かれます。

アクティブ・レポート手法

このレポートでは、一般的なアクティブ・レポート、およびダッシュボード機能を示します。

ブリーフ・ブック

このレポートには、ブリーフ・ブック・スタイルのレポートが表示されます。

このレポートでは次の機能が使用されています。

- 複数のページ
- クロス集計
- 複数のクエリー
- フィルター
- 円グラフ
- シングルトン

- 目次
- ブックマーク
- PDF オプション
- 横方向へのページ付け
- ソート
- カスタム・ヘッダーとカスタム・フッター
- テキスト・アイテム

フィルム・ストリップ

このアクティブ・レポートは、さまざまなグラフで詳細な販売の実状を示します。デッキ・コントロールがナビゲーションに使用されます。

横方向へのページ付け

このレポートには、クロス集計が横方向に数ページにわたって表示されます。最初のクロス集計はサイズをページに合わせて、2 番目のクロス集計は横方向にページを付けて表示されます。

このレポートでは次の機能が使用されています。

- 複数のページ
- 横方向へのページ付け
- クロス集計
- カスタム・ヘッダーとカスタム・フッター

マトリックス・グラフおよびグラフ

このアクティブ・レポートは、アメリカの州ごとに、販売の実状の集計を示します。地図の中のカテゴリーをクリックすると、リストにデータが表示されます。

注文請求書 - Donald Chow 販売員

このレポートでは、Donald Chow によるすべての売上についての請求書を生成します。

このレポートでは次の機能が使用されています。

- リスト
- リスト行のセルの追加
- 計算
- テーブルの表示形式の設定
- 計算
- フィルター
- グループ化
- 表によるオブジェクトの表示位置の指定

データを使用しない

このレポートの各ページでは、データがない場合のいくつかの異なる処理方法が紹介されています。また、"GO 販売 (クエリー)"パッケージの"注文請求書 - Donald Chow 販売員"レポートの売り上げの請求書も生成されます。

このレポートでは次の機能が使用されています。

- クロス集計
- カスタム・ヘッダーとカスタム・フッター
- データなし
- リスト

PDF ページ・プロパティ

このレポートを PDF 形式で実行すると、1 ページ目と 2 ページ目が、縦と横の異なる用紙の向きで表示されます。

このレポートでは次の機能が使用されています。

- クロス集計
- リスト
- 用紙の向き
- PDF オプション
- カスタム・ヘッダーとカスタム・フッター

製品の詳細

このアクティブ・レポートは、製品の色、サイズ、説明の属性を表示します。

販売分析

このアクティブ・レポートは、グラフとの相互作用を示します。グラフ内の円グラフの一部をクリックすると、選択された製品ラインがフィルターに掛けられます。

販売ダッシュボード

このアクティブ・レポートでは、地域別および製品ブランド別の販売の詳細に焦点が当てられています。地域別の収益性の高い小売業者および最高業績を示します。

ページ本体の シングルトン

このレポートでは、シングルトン の結果を用いて、同一レイアウト・コンテキスト内にデータ関係を持たない情報が表示されます。

このレポートでは次の機能が使用されています。

- シングルトン
- テーブル
- カスタム・ヘッダーとカスタム・フッター

目次

このレポートでは、2 つの目次が表示されます。1 つはメイン・ページの目次で、もう 1 つは付録の目次です。

このレポートでは次の機能が使用されています。

- クロス集計
- 円グラフ
- ブックマーク

- テーブル
- 目次
- カスタム・ヘッダーとカスタム・フッター
- ハイパーリンク

プロンプト API サンプル

以下の各レポートは、Samples_Prompt_API フォルダーにあるレポートの一部です。

プロンプトでの選択アイテムのクリア

このレポートは、プロンプト API を使用してすべてのプロンプトから選択アイテムをクリアする例を示しています。

日付のプロンプトの事前設定

このレポートは、プロンプト API を使用して、ユーザーに当日の日付に応じたプロンプト選択アイテムの事前設定のセットを提供します。

ユーザーの選択アイテムを無視したすべてのプロンプト値の表示

このレポートは、プロンプト API を使用して、選択の有無にかかわらずプロンプト内のすべての値を表示します。

ユーザーが選択したプロンプト値の表示

このレポートは、プロンプト API を使用して、ユーザーが選択したプロンプト値を表示します。

国の文字別フィルタリング

このレポートは、カスタム・プロンプト・コントロールを使用して、パラメーターを提供してレポートをフィルタリングします。

データベース値による日付プロンプトの選択アイテムの制限

このレポートは、日付の選択を、クエリー・アイテム内の最新の日付値以下の値に制限する例を示しています。

データベース値による数値プロンプトの選択アイテムの制限

このレポートは、値の選択を、クエリー・アイテム内の最大値以下に制限する例を示しています。

2 つの日付間の時間の制限

このレポートは、ユーザーが 10 日間を超える日付範囲を選択しないようにする例を示しています。

ユーザーの選択アイテムを 2 つまでに制限する

このレポートは、ユーザーが 3 つ以上のアイテムを選択しないようにするプロンプト値を検証する方法を示しています。

非表示プロンプトを介したパラメーターの受け渡し

このレポートは、非表示プロンプトの値を設定する例を示しています。

個人用デフォルト・プロンプトの選択アイテム - 選択アイテムの設定

このレポートでは、ユーザーはデフォルト・プロンプトの選択アイテムのセットを、後続のレポートで使用できるように保存できます。プロンプトの選択アイテムは、他のレポートで再使用できるように、ブラウザの Cookie に保存されます。

個人用デフォルト・プロンプトの選択アイテム - 選択アイテムの使用

このレポートは、個人用デフォルト・プロンプトの選択アイテムを使用する方法を示しています。

ボタン押下時のプロンプト値の検証

このサンプルは、プロンプト・ボタンがクリックされたときに、プロンプト値を検証する方法を示しています。

入力された郵便番号の値の検証

レポートは、プロンプト API を使用して、ユーザーが入力すると文字ごとにユーザー入力を検証し、有効な郵便番号が入力されたことを確認します。

入力された製品ライン・コードの検証

このレポートは、プロンプト API を使用して、ユーザーの入力に際してユーザー入力を検証します。

Cognos Mobile のサンプル

IBM Cognos Analytics のサンプルには、モバイル・デバイス上の IBM Cognos Mobile のリッチ・クライアントで使用するために最適化されたアクティブ・レポートが含まれています。

モバイル・デバイス・ユーザーは、アクティブ・レポートのインタラクティブ機能を試してみることができます。これらのレポートにより、ユーザーはビジネスのさまざまな分野を比較して、期間別、地域別、部門別、あるいはそれらの組み合わせなどによるトレンドを判別することができます。また、複数のビジネス方式や統計を比較することもできます。

Cognos Mobile サンプルのアクティブ・レポートは、以下の製品機能のデモを行います。

- コントロール間の双方向の動作。
- ドリルダウン機能による要求時対応の詳細へのアクセス。
- 条件パレット、およびグラフからの詳細へのドリルダウン。
- 特定の設計のタブレット・ジェスチャー (スワイプ、スクロールなど)。
- 特定のユーザー・インターフェース設計 (カバー・ページ、色パレットなど)。
- 各種タイプのアクティブ・レポート項目 (デッキ、タブ・コントロール、グラフ、ボタン、ドロップダウン・リスト、イテレーター、スライダーなど)。

GO データ・ウェアハウス (分析) パッケージ

"GO データ・ウェアハウス (分析)"パッケージには、以下のアクティブ・レポートが含まれています。

主力製品の結果

このアクティブ・レポートは、主力製品の「キャンプ用品」と「ゴルフ用品」の収益データを表示します。

財務レポート

このアクティブ・レポートは、企業の財務状態の現在の実績および変動を示します。この種の情報はビジネス上の決定に関係するユーザーすべてにとって価値があります。ただし、次の場合に財務部門はこの情報から益を得る可能性が最も高いと考えられます。それは、法律上、税務上、および会計上の規則や要件に従うためにシステムで検査と統制を実施する場合、およびビジネスの今後の方向性、実績、および機会に関するアドバイスを提供する場合です。このレポートはタブレット用に最適化されています。

棚卸資産回転率レポート

このアクティブ・レポートは、2年間の比較データに基づく地域ごとの製品棚卸資産回転率についての情報を示します。このレポートは、企業が棚卸資産を管理するために使用する重要な棚卸資産評価指標を提供します。各製品カテゴリーをドリルダウンして、詳細な棚卸資産情報および棚卸資産に関連して失敗した発注数を表示することができます。このレポートはタブレット用に最適化されています。

地域ごとの販売目標

このアクティブ・レポートは、計画収益と実収入との差の割合を含む、地域ごとの販売目標を示します。

GO データ・ウェアハウス (クエリー) パッケージ

"GO データ・ウェアハウス (クエリー)" パッケージには、以下のアクティブ・レポートが含まれています。

宣伝費と収益との比較

このアクティブ・レポートは、年ごとの、宣伝費と収益の比較を示します。タブ・コントロールは、類似したレポート・アイテムのグループ化に使用されます。

顧客満足度

このアクティブ・レポートは、顧客による返品の数、発注方法別および地域別に比較します。このレポートは、返品数が最も多い発注方法についての追加情報を提供します。さらに、さまざまな地域の顧客調査の結果も示します。このレポートはタブレット用に最適化されています。

従業員採用

このアクティブ・レポートは、部門、国または地域ごとの従業員採用のさまざまな方法の有効性を比較します。そこには、組織名、採用済みポジション、予定ポジション、および採用済みポジションと予定ポジションを比較したタブレット・グラフが示されます。このレポートはタブレット用に最適化されています。

製品別の収益

このアクティブ・レポートは、選択された製品別の収益を示しています。このレポートは携帯電話デバイス用に最適化されています。

Cognos Workspace サンプル

サンプルのインストールには、いくつかの Cognos Workspace サンプルが含まれます。

"GO データ・ウェアハウス (分析)"パッケージのサンプル

"GO データ・ウェアハウス (分析)"パッケージには、次の IBM Cognos Workspace のレポートがあります。

「従業員満足度」ワークスペース

このレポートには、研修への投資、従業員調査結果（計画調査結果との比較を含む部門別、トピック別）などの従業員満足度のさまざまな数値データと、国または地域別にソートされた従業員の賞与のリストが表示されます。賞与リストには、スライダー・フィルターが適用されています。

"GO データ・ウェアハウス (クエリー)"パッケージのサンプル

「GO データ・ウェアハウス (クエリー)」パッケージには、次のワークスペースがあります。

「マーケティング」ワークスペース

このワークスペースには、さまざまなプロモーション・キャンペーンの結果が表示されます。

キャンペーン名に対する値の選択フィルターが、最初の 2 つのグラフに適用されています。製品ラインの値の選択フィルターが広告費用グラフに、年のスライダー・フィルターが広告費用クロス集計にそれぞれ適用されています。

「採用」ワークスペース

このワークスペースには、採用結果（職位補充に要した平均日数）が、組織別、部門別、支店別、年別のさまざまな指標で表示され、さまざまな採用手法の成果に関する詳細情報が表示されます。

2 つの値の選択フィルターによって、3 つのウィジェットが制御されています。

「収益データ」ワークスペース

このワークスペースには、場所別、または製品タイプ別、および発注方法別の収益が表示されます。

場所、および製品タイプは、値の選択フィルターによって制御されます。

「年別の販売」ワークスペース

このワークスペースには、スライダー・フィルターで制御される年の範囲の利益幅、総利益、製品原価、販売数量、地域別収益、実収益と予定収益の比較など、さまざまな指標が表示されます。

すべてのウィジェットがスライダー・フィルターによって制御されています。

タブ付きワークスペース

このワークスペースには、グローバル域と 3 種のタブ (利益と売上のデータ、人事データ、財務データ) が表示されます。

グローバル域には、タブ間を移動するのに役立つ操作ボタンがあります。またグローバル域には、3 つのうち 2 つのタブのウィジェットを制御するスライダー・フィルターもあります。

Java サンプルの使用

IBM Cognos Software Development Kit には、設計可能なアプリケーションの幾つかのタイプを示す Java™ プログラムのサンプルが含まれています。これらのサンプルにはソース・ファイルが入っているのでサンプル・コードに変更を加えてテストできますし、サンプルをコンパイルおよび実行するためのバッチ・ファイルまたはシェル・スクリプトも入っています。

ソース・ファイル内のコメントでは、使用されている BI Bus API Software Development Kit 方式の要約を含めて、各サンプルの主要な目的が説明されています。バッチ・ファイルとシェル・スクリプトには、実行前に行う必要がある説明が含まれています。

インストール場所/sdk/java 内の各サブディレクトリーには、以下のファイルが含まれています。

表 9. インストール場所/sdk/java サブディレクトリー内のファイル

ファイル	説明
build.bat	Windows オペレーティング・システム上に個々のサンプルを作成します。
build.sh	UNIX または Linux オペレーティング・システム上に個々のサンプルを作成します。
run.bat	Windows オペレーティング・システム上で個々のサンプルを実行します。
run.sh	UNIX または Linux オペレーティング・システム上で個々のサンプルを実行します。

さらに、<インストール場所>/sdk/java ディレクトリーには以下のファイルが含まれています。

表 10. インストール場所/sdk/java ディレクトリー内のファイル

ファイル	説明
build-samples.bat	すべての Java サンプルを Windows オペレーティング・システム上に作成します。

表 10. インストール場所/sdk/java ディレクトリー内のファイル (続き)

ファイル	説明
build-samples.sh	すべての Java サンプルを UNIX または Linux オペレーティング・システム上に作成します。

いずれかの Java サンプルを変更する前に、基本的な Java プログラミング手法に精通する必要があります。

これらの Java サンプルを使用する前に、匿名アクセスが有効な状態かどうかを確認してください。匿名アクセスでもサンプルは作動しますが、セキュリティ機能は例示されません。サンプルのセキュリティ機能を使用するには、セキュリティーで保護された NTLM、LDAP、または他のネームスペースがあることを、および匿名アクセスを無効にしてあることを確認してください。

Java サンプルの中にはコマンド・コンソールに出力を送出するものもあるため、サンプル実行時にコンソールが表示されるようにしてください。

Windows オペレーティング・システムにおける Java サンプルの設定

以下の手順に従って、Windows オペレーティング・システム上で Java サンプルを設定します。

手順

1. Java Development Kit (JDK) をインストールします。サポートされている Java のバージョンを判別するには、IBM Cognos Analytics 11.0.0 Supported Software Environments (<http://www-01.ibm.com/support/docview.wss?uid=swg27047186>) を参照してください。ご使用の製品および製品バージョンを選択し、関連するソフトウェアのレポートを作成します。サポートされているソフトウェアの下の開発ツールを選択します。生成されたレポートは、サポートされている Java のバージョンをリストします。
2. PATH 環境変数に、JDK がインストールされている場所が含まれていることを確認します。
3. <インストール場所>/sdk/java/Common/CRNConnect.java を編集します。そのためには、まず以下の行を見つけます。

```
public static String CM_URL = "http://localhost:9300/p2pd/servlet/dispatch";
```

その後、localhost:9300 の部分を、名前と、必要に応じて IBM Cognos デイスパッチャーのポート番号に置き換えます。

4. すべてのサンプルをコンパイルする場合、<インストール場所>/sdk/java/build-samples.bat を編集し、以下の行に変更を加えます。

```
set JAVA_HOME=c:/jdk1.5
set CRN_HOME=../../
```

これらが、JDK および IBM Cognos Analytics サーバーがインストールされている場所を指すようにそれぞれ変更します。

5. 個々のサンプルをコンパイルする場合、<インストール場所>/sdk/java/サンプル名/build.bat を編集し、以下の行に変更を加えます。

```
set JAVA_HOME=c:/jdk1.5
set CRN_HOME=../../
```

これらが、JDK および IBM Cognos Analytics サーバーがインストールされている場所を指すようにそれぞれ変更します。

6. build-samples.bat (すべてのサンプルをコンパイルする場合) または build.bat (個々のサンプルをコンパイルする場合) を実行し、Java サンプルをコンパイルします。

Linux およびUNIX オペレーティング・システムの Java 設定

以下の手順に従って、Linux および UNIX オペレーティング・システム上で Java サンプルを設定します。

手順

1. Java Development Kit (JDK) をインストールします。サポートされている Java のバージョンを判別するには、IBM Cognos Analytics 11.0.0 Supported Software Environments (<http://www-01.ibm.com/support/docview.wss?uid=swg27047186>) を参照してください。ご使用の製品および製品バージョンを選択し、関連するソフトウェアのレポートを作成します。サポートされているソフトウェアの下の開発ツールを選択します。生成されたレポートは、サポートされている Java のバージョンをリストします。
2. JAVA_HOME 環境変数を、JDK がインストールされている場所を指すように設定します。
3. <インストール場所>/sdk/java/Common/CRNConnect.java を編集します。そのためには、まず以下の行を見つけます。

```
public static String CM_URL = "http://localhost:9300/p2pd/servlet/
dispatch";
```

その後、localhost:9300 の部分を、名前と、必要に応じて IBM Cognos デイスパッチャーのポート番号に置き換えます。

4. すべてのサンプルをコンパイルする場合、<インストール場所>/sdk/java/build-samples.sh を編集し、以下の行に変更を加えます。

```
CRN_HOME=/usr/cognos/xxx
JAVA_HOME=/c/j2sdk1.5
```

これらが、JDK および IBM Cognos Analytics サーバーがインストールされている場所を指すようにそれぞれ変更します。

5. 個々のサンプルをコンパイルする場合、<インストール場所>/sdk/java/サンプル名/build.sh を編集し、以下の行に変更を加えます。

```
CRN_HOME=/usr/cognos/xxx
JAVA_HOME=/c/j2sdk1.5
```

これらが、JDK および IBM Cognos Analytics サーバーがインストールされている場所を指すようにそれぞれ変更します。

6. build-samples.sh (すべてのサンプルをコンパイルする場合) または build.sh (個々のサンプルをコンパイルする場合) を実行し、Java サンプルをコンパイルします。

IBM Cognos Analysis Studio サンプル

IBM Cognos Analysis Studio には、架空の小売業者、Sample Outdoors 社の情報に基づいたサンプル分析が用意されています。

「組み合わせフィルター」サンプル

この分析では、複数の組み合わせフィルターを使用して、業務上の問題に対する答えを見つけます。このレポートでは次の機能が使用されています。

- フィルターの組み合わせ
- カスタム・フィルターの使用

「カスタマイズしたランキング」サンプル

この分析には、デフォルトのランキング規則に優先するカスタマイズしたランキング規則を使用したクロス集計が表示されます。このレポートではその機能が使用されています。

- カスタム・ランキング

製品ブランド別四半期累計の成長

この分析では、キューブ計算を使用して、製品ブランド別の総収益に対する四半期累計の伸びを表示します。この分析では次の機能が使用されています。

- 上位または下位の値の確認
- グラフ作成

小売業者別プロモーション上位 10 件

この分析では、2 つのフィルターを使用して、通常販売額が 100,000,000 を超える小売業者と、プロモーションによる売り上げが全体に占める割合を表示します。表示する年はユーザーが選択します。この分析では次の機能が使用されています。

- 合計の % 計算
- 上位または下位の値の確認
- クロス集計およびグラフとしての分析の表示
- 「移動」パラメーターとしてのコンテキスト・フィルターの使用

実収益と予定収益の差

この分析では、クロス集計を使用して、キャンプ用品の上位 3 製品の実収益と計画収入の差を示します。この分析では次の機能が使用されています。

- 上位または下位の値の確認
- クロス集計およびグラフとしての分析の表示
- 差の計算

製品ブランド別の収益と総利益率の対比

この分析では、「販売とマーケティング (キューブ)」パッケージを使用して、製品ブランド別の収益と総利益率を示します。この分析では次の機能が使用されています。

- グラフ作成
- 比率の計算

IBM Cognos Query Studio サンプル

IBM Cognos Query Studio には、架空の小売業者、Sample Outdoors 社の情報に基づいたサンプル・レポートが含まれています。

"GO データ・ウェアハウス (分析)"パッケージのサンプル

"GO データ・ウェアハウス (分析)"パッケージには、次のようなレポートが含まれています。

製品ライン別返品数量

このクロス集計レポートでは、すべての関連会社について、製品ラインごとの返品数量が表示されます。

製品ライン別返品数量のグラフ

この円グラフ・レポートでは、すべての関連会社について、製品ラインごとの返品数量が表示されます。

製品タイプ別返品

このレポートでは、すべての関連会社について、製品タイプごとの返品数量および返品の結果として生じた収益の損失が表示されます。

"GO 販売 (クエリー)"パッケージのサンプル

"GO 販売 (クエリー)"パッケージには次のレポートが含まれています。

ベラ眼鏡ブランドの総利益

このレポートでは、ベラ眼鏡ブランドの総利益が表示されます。テキスト・フィルターを使用してブランドを取得し、連結を使用して製品の名前と色の一意的組み合わせを取得します。

第 6 章 Sample Outdoors 組織およびスキーマ

持株会社 GO Consolidated の下に、6 つの個別販売組織があり、それぞれ独自の部門および営業所を持っています。

GO Consolidated は、GO Americas、GO Asia Pacific、および GO Accessories の販売組織で構成されています。GO Accessories の販売組織は、GO Northern Europe、GO Central Europe、および GO Southern Europe で構成されています。

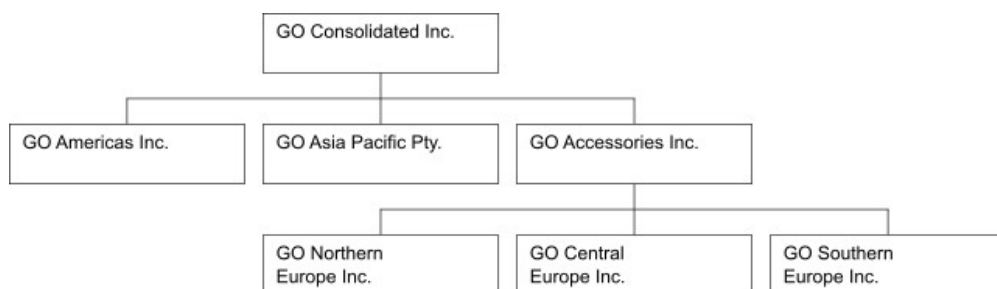


図 2. GO 組織

Outdoors 社

6 つの組織のうちの 5 つは地域ベースの会社で、販売地域は会社名によって識別されます。これら 5 つの会社は、以下のアウトドア製品ラインすべてを販売しています。

- キャンプ用品
- ゴルフ用品
- 登山用品
- 個人装備
- アウトドア用保護用品

Accessory 社

GO Accessories Inc. は 5 つのアウトドア会社とは運営が異なり、以下のようないくつかの面でも独特です。

- GO Accessories には独自の小物コレクションがあり、ブランド、名前、価格、色、サイズによって Outdoor 社と区別されます。
- GO Accessories は、1 つの支店からすべての地域および小売業者に販売を行います。
- GO Accessories は、ジュネーブに拠点を置く運営会社としても、ヨーロッパにある 3 つの GO 関連会社の所有者または共同所有者としても機能します。これにより構造が複雑になり、財務タイプのレポートを示すサンプルで役立ちます。

バランスのとれていない階層

ヨーロッパにある GO Accessories 社の所有権によって、財務レポート用に設計されたアプリケーションがサポートされます。サンプル・アプリケーションには、関係会社間消去、および最上位レベル・ノードである GO Consolidated までの連結を含めることができます。この構造では、ヨーロッパにある会社の集計は GO Accessories を介して行います。

結果として生じるバランスのとれていない階層には、次の表に示すように追加レベルがあります。組織構造のレベル 3 にある GO Central Europe (GOCEU) は、GO Americas の事業部門 (GOAMXOP) と同じレベルにあります。

表 11. サンプル GO Accessories の階層

レベル	例 (ID)	例 (データ)
組織レベル 1	GOCON	GO CONSOLIDATED
組織レベル 2	GOAMX GOEUX	GO Americas GO Accessories
組織レベル 3	GOAMXOP GOCEU	GO Americas 事業部門 GO Central Europe
組織レベル 4	30 GOCEUOP	販売支店 30 - Sao Paulo - BRA GO Central Europe 事業部門
組織レベル 5	30 6	販売支店 30 - Sao Paulo - BRA 販売支店 6 - Paris - FRA

均衡階層 - ビュー

ビューを使用すると、GO Accessories とヨーロッパの会社間の関係を横並びにして組織階層のバランスを取ることができます。ビューは、会社エンティティごとに異なる評価指標と集計を示すサンプルを作成する場合に使用します。

Gosales VIEW_BALANCED_ORG

```
SELECT TOP 100 PERCENT ORGANIZATION_1.ORGANIZATION_PARENT AS ORG_LEVEL1_CODE,
    gosaleshr.ORGANIZATION.ORGANIZATION_PARENT AS ORG_LEVEL2_CODE,
    gosaleshr.ORGANIZATION.ORGANIZATION_CODE
FROM    gosaleshr.ORGANIZATION ORGANIZATION_1 RIGHT OUTER JOIN
    gosaleshr.ORGANIZATION ON ORGANIZATION_1.ORGANIZATION_CODE =
    gosaleshr.ORGANIZATION.ORGANIZATION_PARENT
WHERE (gosaleshr.ORGANIZATION.ORGANIZATION_CODE BETWEEN N'006' AND
    N'8820')
```

```
ORDER BY ORGANIZATION_1.ORGANIZATION_PARENT,
    gosaleshr.ORGANIZATION.ORGANIZATION_PARENT DESC,
    gosaleshr.ORGANIZATION.ORGANIZATION_CODE
```

gosalesdw.VIEW_BALANCED_ORG

```
SELECT gosalesdw.GO_ORG_DIM.ORGANIZATION_KEY, GO_ORG_DIM_1.ORGANIZATION_PARENT AS
    ORG_LEVEL1_CODE, GO_ORG_NAME_LOOKUP_1.ORGANIZATION_NAME_EN AS ORG_LEVEL1_NAME,
    gosalesdw.GO_ORG_DIM.ORGANIZATION_PARENT AS ORG_LEVEL2_CODE,
```



```

GO_ORG_NAME_LOOKUP_2.ORGANIZATION_NAME_EN AS ORG_LEVEL2_NAME,
gosalesdw.GO_ORG_DIM.ORGANIZATION_CODE AS ORG_CODE,
gosalesdw.GO_ORG_NAME_LOOKUP.ORGANIZATION_NAME_EN AS ORG_NAME
FROM gosalesdw.GO_ORG_NAME_LOOKUP GO_ORG_NAME_LOOKUP_2 INNER JOIN
gosalesdw.GO_ORG_DIM INNER JOIN
gosalesdw.GO_ORG_NAME_LOOKUP ON
gosalesdw.GO_ORG_DIM.ORGANIZATION_CODE =
gosalesdw.GO_ORG_NAME_LOOKUP.ORGANIZATION_CODE ON
GO_ORG_NAME_LOOKUP_2.ORGANIZATION_CODE =
gosalesdw.GO_ORG_DIM.ORGANIZATION_PARENT INNER JOIN
gosalesdw.GO_ORG_NAME_LOOKUP GO_ORG_NAME_LOOKUP_1 INNER JOIN
gosalesdw.GO_ORG_DIM GO_ORG_DIM_1 ON GO_ORG_NAME_LOOKUP_1.ORGANIZATION_CODE =
GO_ORG_DIM_1.ORGANIZATION_PARENT ON
gosalesdw.GO_ORG_DIM.ORGANIZATION_PARENT =
GO_ORG_DIM_1.ORGANIZATION_CODE
WHERE (gosalesdw.GO_ORG_DIM.ORGANIZATION_CODE BETWEEN N'006' AND N'8820')

```

GO 社の部門

Sample Outdoors 社は、事業部門と本社部門に分割されます。それぞれの組織の構造は同じです。

財務データと計画データ用のアプリケーションでは、サンプルの予算と予測で部門構造を使用します。

事業部門の下の販売支店、本社部門の下の人事部門は、クエリーと分析の対象データの豊富な情報源です。

表 12. Sample Outdoors の部門

部門 (GL)	部署 (GL)
本社部門	販売 (本社)
本社部門	マーケティング (1750)
本社部門	情報サービス/技術
本社部門	人事
本社部門	財務
本社部門	調達
事業部門	販売支店
事業部門	製造販売
事業部門	顧客サービス

GO 社の事業部門

収益、数量、製品原価などの評価指標は、支店の販売員から、各会社バナーの下の事業部門までのレベルで集計されます。

他の部門のデータは売上データに結び付けられます。例えば、マーケティング部門は販売キャンペーンを実行します。

人事

人事データは、報酬、福利厚生、研修、調査などの評価指標のために存在します。従業員には時間給または給与が支払われます。報酬には、歩合およびボーナスが含まれる場合があります。休暇日数および傷病休暇取得数は、福利厚生パッケージの一部です。

Sample Outdoors 社の組織ごとに、マーケティング、財務、販売、および他の部門の職員などさまざまな業種の従業員を採用しています。従業員の配置転換、または新しい責任者を指名するために、従業員履歴があります。

ウェアハウス・データ (GOSALESDW) では、従業員履歴は徐々に変化するディメンションに含まれます。このディメンションでは、従業員コードの値は反復する可能性があり、従業員キーは固有です。

トランザクション・データ (GOSALES) では、従業員履歴は、トランザクション・レコードを適切な期間における従業員に割り当てるために、特定の日付範囲でフィルタリングする必要があります。またフィルタリングにより、従業員コードの反復による二重カウントを防止できます。例えば、研修の際に特定の従業員の正確な履歴を収集するには、日付範囲を限定します。

```
WHERE (TRAINING_DETAILS.TRAINING_DATE BETWEEN  
EMPLOYEE_HISTORY.RECORD_START_DATE AND EMPLOYEE_HISTORY.RECORD_END_DATE)
```

または、従業員履歴をフィルタリングして除外することにより、アクティブなレコードを選択できます。このようにすると、従業員の現在の責任者または職位だけが戻ります。

```
WHERE (EMPLOYEE_HISTORY.RECORD_END_DATE IS NULL)
```

ウェアハウス・スキーマ

Gosalesdw スキーマ

表 13. Great Outdoors 販売データ・ウェアハウス・スキーマ

テーブル	レコード・カウント	機能領域
DIST_INVENTORY_FACT	53,837	配布
DIST_PRODUCT_FORECAST_FACT	129,096	配布
DIST_RETURN_REASON_DIM	5	配布
DIST_RETURNED_ITEMS_FACT	10,249	配布
EMP_EXPENSE_FACT	127,984	配布
EMP_EXPENSE_PLAN_FACT	30,150	配布
EMP_EXPENSE_TYPE_DIM	39	配布
FIN_ACCOUNT_DIM	242	財務
FIN_FINANCE_FACT	164,132	財務
FIN_SUBM_DIM	52	財務
GO_BRANCH_DIM	29	地理
GO_REGION_DIM	21	地理
MRK_PROD_SURVEY_TARG_FACT	5,824	マーケティング

表 13. Great Outdoors 販売データ・ウェアハウス・スキーマ (続き)

テーブル	レコード・カウント	機能領域
MRK_PRODUCT_SURVEY_DIM	7	マーケティング
MRK_PRODUCT_SURVEY_FACT	165,074	マーケティング
MRK_PROMOTION_DIM	112	マーケティング
MRK_PROMOTION_FACT	11,034	マーケティング
MRK_PROMOTION_PLAN_FACT	8,652	マーケティング
MRK_RTL_SURVEY_DIM	9	マーケティング
MRK_RTL_SURVEY_FACT	22,508	マーケティング
MRK_RTL_SURVEY_TARG_FACT	64	マーケティング
EMP_POSITION_DIM	57	組織
GO_ORG_DIM	123	組織
EMP_EMPLOYEE_DIM	972	社員
EMP_POSITION_SUMMARY_FACT	15,050	社員
EMP_RANKING_DIM	5	社員
EMP_RANKING_FACT	1,897	社員
EMP_RECRUITMENT_DIM	14	社員
EMP_RECRUITMENT_FACT	416	社員
EMP_SUCCESSION_FACT	181	社員
EMP_SUCCESSION_STATUS_DIM	5	社員
EMP_SUMMARY_FACT	24,233	社員
EMP_SURVEY_FACT	5,725	社員
EMP_SURVEY_TARG_FACT	20	社員
EMP_SURVEY_TOPIC_DIM	5	社員
EMP_TRAINING_DIM	42	社員
EMP_TRAINING_FACT	4,465	社員
GO_SATISFACTION_DIM	5	社員
SLS_PRODUCT_DIM	274	製品
MRK_ACTIVITY_STATUS_DIM	2	小売業者
SLS_RTL_DIM	847	小売業者
SLS_ORDER_METHOD_DIM	7	販売
SLS_SALES_FACT	446,023	販売
SLS_SALES_ORDER_DIM	446,023	販売
SLS_SALES_TARG_FACT	233,625	販売
GO_TIME_DIM	1,465	時刻
Xgorev	15	データベース管理

Gosalesdw 検索テーブル

表 14. Great Outdoors 販売データウェアハウス検索

テーブル	レコード・カウント	機能領域
EMP_EXPENSE_UNIT_LOOKUP	3	費用

表 14. Great Outdoors 販売データウェアハウス検索 (続き)

テーブル	レコード・カウント	機能領域
FIN_ACCOUNT_CLASS_LOOKUP	5	財務
FIN_ACCOUNT_NAME_LOOKUP	242	財務
FIN_ACCOUNT_TYPE_LOOKUP	4	財務
FIN_SUBM_CURRENCY_LOOKUP	7	財務
FIN_SUBM_TYPE_LOOKUP	3	マーケティング
MRK_BUNDLE_GROUP_LOOKUP	15	マーケティング
MRK_CAMPAIGN_LOOKUP	12	組織
EMP_POSITION_LOOKUP	57	組織
GO_ORG_NAME_LOOKUP	123	社員
EMP_TERMINATION_LOOKUP	6	社員
GO_GENDER_LOOKUP	2	製品
SLS_PRODUCT_BRAND_LOOKUP	28	製品
SLS_PRODUCT_COLOR_LOOKUP	27	製品
SLS_PRODUCT_LINE_LOOKUP	5	製品
SLS_PRODUCT_LOOKUP	274 (言語あたり)	製品
SLS_PRODUCT_SIZE_LOOKUP	55	製品
SLS_PRODUCT_TYPE_LOOKUP	21	製品
GO_TIME_QUARTER_LOOKUP	20	時刻

トランザクション・スキーマ

GO 販売スキーマ

表 15. Great Outdoors 販売スキーマ

テーブル	レコード・カウント	機能領域
INVENTORY_LEVELS	53,837	配布
PRODUCT_FORECAST	129,096	配布
RETURN_REASON	5	配布
RETURNED_ITEM	10,249	配布
BRANCH	29	地理
COUNTRY	21	地理
SALES_REGION	5	地理
PRODUCT	274	製品
PRODUCT_BRAND	28	製品
PRODUCT_LINE	5	製品
PRODUCT_TYPE	21	製品
CONVERSION_RATE	624	販売
EURO_CONVERSION	8	販売
ORDER_DETAILS	446,023	販売
ORDER_HEADER	53,256	販売

表 15. Great Outdoors 販売スキーマ (続き)

テーブル	レコード・カウント	機能領域
ORDER_METHOD	7	販売
SALES_TARGET	233,625	販売
TIME_DIMENSION	1,465	時刻
xgorev	16	データベース管理

GO 販売検索テーブル

表 16. Great Outdoors 販売検索テーブル

テーブル	レコード・カウント	機能領域
PRODUCT_COLOR_LOOKUP	27	製品
PRODUCT_NAME_LOOKUP	274 (言語あたり)	製品
PRODUCT_SIZE_LOOKUP	55	製品
CURRENCY_LOOKUP	21	販売
TIME_QUARTER_LOOKUP	20	時刻

Gosaleshr スキーマ

表 17. Great Outdoor 販売の人事スキーマ

テーブル	レコード・カウント	機能領域
EMPLOYEE_EXPENSE_DETAIL	127,997	費用
EMPLOYEE_EXPENSE_PLAN	37,317	費用
EMPLOYEE_SUMMARY	24,233	費用
EMPLOYEE_SURVEY_TOPIC	5	費用
EXPENSE_GROUP	10	費用
EXPENSE_TYPE	39	費用
EXPENSE_UNIT	3	費用
ORGANIZATION	123	組織
POSITION_DEPARTMENT	445	組織
POSITION_SUMMARY	15,050	組織
EMPLOYEE	766	社員
EMPLOYEE_HISTORY	972	社員
EMPLOYEE_SURVEY_RESULTS	5,725	社員
EMPLOYEE_SURVERY_TARGETS	20	社員
RANKING	5	社員
RANKING_RESULTS	1,898	社員
RECRUITMENT	416	社員
RECRUITMENT_MEDIUM	14	社員
RECRUITMENT_TYPE	7	社員
SATISFACTION_INDEX	5	社員
SUCCESSION_DETAILS	182	社員
SUCCESSOR_STATUS	5	社員

表 17. *Great Outdoor* 販売の人事スキーマ (続き)

テーブル	レコード・カウント	機能領域
TRAINING	42	社員

Gosaleshr 検索テーブル

表 18. *Great Outdoors* 販売の人事検索テーブル

テーブル	レコード・カウント	機能領域
DEPARTMENT_LOOKUP	12	組織
POSITION_LOOKUP	45	組織
GENDER_LOOKUP	2	社員
TERMINATION_LOOKUP	6	社員
TRAINING_DETAILS	4,471	社員

Gosalesmr スキーマ

表 19. *Great Outdoors* 販売のマーケティング・スキーマ

テーブル	レコード・カウント	機能領域
PRODUCT_SURVEY_RESULTS	165,074	マーケティング
PRODUCT_SURVEY_TARGETS	5,824	マーケティング
PRODUCT_SURVEY_TOPIC	7	マーケティング
PROMOTION_BUNDLE_GROUP	15	マーケティング
PROMOTION_CAMPAGN	12	マーケティング
PROMOTION_PLAN	8,652	マーケティング
PROMOTIONS	112	マーケティング
RETAILER_SURVEY_RESULTS	22,508	マーケティング
RETAILER_SURVEY_TARGETS	64	マーケティング
RETAILER_SURVEY_TOPIC	9	マーケティング

Gosalesrt スキーマ

表 20. *Great Outdoors* 販売の小売業者

テーブル	レコード・カウント	機能領域
ACTIVITY_STATUS_LOOKUP	2	小売業者
RETAILER	562	小売業者
RETAILER_ACTIVITY	17,754	小売業者
RETAILER_CONTACT	847	小売業者
RETAILER_SITE	847	小売業者
RETAILER_SITE_MB	847	小売業者
RETAILER_TYPE	8	小売業者

索引

日本語, 数字, 英字, 特殊文字の順に配列されています。なお, 濁音と半濁音は清音と同等に扱われています。

[ア行]

インポート
サンプル 17, 25

[カ行]

監査レポート 35

[サ行]

サンプル 29, 40
インポート 17, 25, 41
監査レポート 35
キューブ 34
サンプル・データベースを復元する 6
従業員 32
スクリプトを使用して Db2 用のバックアップ・ファイルを復元する 7
スクリプトを使用して Oracle 用のバックアップ・ファイルを復元する 12
セットアップ 5
データベース、モデル、パッケージ 33
データ・ソース接続 40
動的キューブのデータベース・モデル 25
動的キューブの配布 26
パッケージ 35
販売とマーケティング (キューブ) パッケージ 42
販売とマーケティングのデータ 32
プロンプト API フォルダ 57
モデル 18
Analysis Studio 64
Cognos Workspace 60
Essbase キューブ 20
GO データ・ウェアハウス 33
GO データ・ウェアハウス (クエリー) パッケージ 52
GO データ・ウェアハウス (分析) パッケージ 44
GO 販売 (クエリー) パッケージ 54
GO 販売 (分析) パッケージ 54
GO 販売トランザクション・データベース 34
Java 設定のステップ 62, 63
Metric Designer 5
Mobile 58
MSAS キューブ 20
OLAP データ・ソース 21
Query Studio 65

サンプル (続き)
Reporting 41
Sample Outdoors 社 30
Sample Outdoors 販売 (キューブ) パッケージ 41
集計する
サンプルと時間ディメンション 32
接続
OLAP データ・ソース 21
設定手順
Java 62, 63
セットアップ
サンプル 5

[タ行]

データ
IBM Cognos サンプル 5
データベース
IBM Cognos サンプル 5
動的キューブ
サンプル・データの配布 26

[ハ行]

パッケージ
サンプル 40
復元
サンプル・データベース 6

[マ行]

モデル
サンプル 40
サンプルを変更する 17, 25
サンプル・モデルとパッケージ 33
データベース・サンプル 18

[ラ行]

レポート
サンプル 40

A

Analysis Studio
サンプル 64

C

Cognos Analytics,
参照： IBM Cognos Analytics
Cognos Workspace サンプル 60

E

Essbase
キューブ・サンプル 20

F

FMD ファイル
model.fmd 25
Framework Manager
サンプル・モデル 18

G

gosldw_sales サンプル動的キューブ 26
gosldw_sales_and_target サンプル動的キューブ 26
gosldw_target サンプル動的キューブ 26

I

IBM Cognos Cube Designer
サンプル・キューブの配布 26
IBM Cognos サンプル 5
IBM Cognos(I)
サンプル 5

J

Java
サンプルの使用 61
設定手順 62, 63

M

Microsoft Analysis Services
MSAS キューブ・サンプルを設定する 20
Mobile のサンプル 58
model.fmd ファイル 25

O

OLAP データ・ソース
接続 21

Q

Query Studio
サンプル 65

R

Reporting
サンプル 41

S

Sample Outdoors 社 30
サンプル 29
データベース、モデル、パッケージ 33
Sample Outdoors,
参照： IBM Cognos サンプル

[特殊文字]

.otl ファイル 20